# 意匠図版 adpack-NEO i 2021

Ver.6.0

# 操作手順マニュアル

ARCHDATA
株式会社アークデータ研究所

# 目　次

## 意匠図版 adpack-NEO i

意匠図版 adpack-NEO i コマンドの実行方法 ..... i

第１章　平面図・求積図の作成 ..... 1-i

１－１　用紙設定を行う ..... 1-1

１－２　通り芯を作図する ..... 1-2

１－３　ＲＣ柱を配置する ..... 1-3

１－４　鉄骨柱の配置と削除を行う ..... 1-5

１－５　壁を作図する ..... 1-6

１－６　間仕切壁を作図する ..... 1-8

１－７　梁を作図する ..... 1-10

１－８　建具を作図する ..... 1-11

（１）片開き扉（右開き）の配置１ ..... 1-11

（２）片開き扉（右開き）の配置２ ..... 1-13

（３）両開き扉の配置 ..... 1-14

（４）スライド窓の配置 ..... 1-15

（５）片開き扉（左開き）の配置１ ..... 1-16

（６）片開き扉（左開き）の配置２ ..... 1-18

１－９　建具を削除する ..... 1-19

１－１０　ＲＣ柱のサイズを変更する ..... 1-20

１－１１　変更したＲＣ柱と周囲の壁との包絡を修正する ..... 1-21

１－１２　間仕切壁位置の寸法を作図する ..... 1-22

１－１３　求積図・面積表を作成する ..... 1-24

（１）求積図１(床面積)の作成 ..... 1-24

〈１〉設定変更 ..... 1-24

〈２〉求積図作成 ..... 1-24

〈３〉符号変更 ..... 1-26

（２）床面積表の作成 ..... 1-27
（３）求積図２(敷地面積)の作成 ..... 1-28
〈１〉敷地境界線作図 ..... 1-28
〈２〉三斜図形自動作図 ..... 1-29
（４）敷地面積表の作成 ..... 1-29
第２章　平面詳細図の作成 ..... 2-i
２－１　用紙設定を行う ..... 2-1
２－２　通り芯を作図する ..... 2-2
２－３　ＲＣ柱を配置する ..... 2-3
２－４　壁を作図する ..... 2-4
（１）連続作図 ..... 2-4
（２）個別作図 ..... 2-5
２－５　仕上線を作図する ..... 2-7
（１）仕上線設定 ..... 2-7
（２）仕上線作図 ..... 2-8
２－６　詳細建具を作図する ..... 2-9
（１）詳細建具－扉 ..... 2-9
〈１〉片開扉－１の配置 ..... 2-9
〈２〉片開扉－２の配置 ..... 2-11
〈３〉片開扉－３の配置 ..... 2-12
（２）詳細建具－サッシ芯 ..... 2-13
（３）詳細建具－サッシ面 ..... 2-14
２－７　詳細建具を削除する ..... 2-16
２－８　階段を作図する ..... 2-17
（１）直線階段の作図 ..... 2-17
（２）省略線の作図と矢印位置等の編集 ..... 2-18
２－９　トイレを作図する ..... 2-20
（１）間仕切壁の作成 ..... 2-20
〈１〉補助線作図 ..... 2-20

〈２〉近接する躯体壁の属性変更 ..... 2-20
〈３〉トイレブースの壁作図 ..... 2-21
〈４〉トイレ個室の壁作図 ..... 2-22
（２）片開扉の作成 ..... 2-23
〈１〉躯体壁へ配置 ..... 2-23
〈２〉トイレの扉作成 ..... 2-24
〈３〉トイレ個室の扉作成 ..... 2-24
（３）設備器具の配置 ..... 2-25
〈１〉洗面台の配置 ..... 2-25
〈２〉洗濯流しの配置 ..... 2-27
〈３〉洋便器の配置 ..... 2-28
〈４〉小便器と間仕切の配置 ..... 2-29
２－１０　文字を記入する ..... 2-32
（１）室名の記入 ..... 2-32
〈１〉文字設定 ..... 2-32
〈２〉文字記入 ..... 2-32
（２）図面名称の記入 ..... 2-33

# 意匠図版 adpack-NEO i コマンドの実行方法

## 意匠図版 adpack-NEO i コマンドの実行方法

意匠図版 adpack-NEO i のコマンドは、画面右側のメインツールバーから各ツールバーを表示して選択するか、リボンメニュー［NEO i 基本］［NEO i 意匠図］から選択します。
NEO i 基本ヘルプ及び意匠図ヘルプでコマンド名が確認できるので、それを直接キーボードから入力して実行することも可能です。

メモ　IJCAD にあるコマンド（例えば線分・円等を描く作図コマンドや移動・コピー等の編集コマンド）は adpack-NEO i のコマンドには加えていないので、基本的な操作は IJCAD コマンドを使用して下さい。

ヒント　各コマンドの機能や操作方法の詳細は、『基本ヘルプ』『意匠図ヘルプ』を参照して下さい。

### 意匠図版 NEO i リボンメニュー（ NEO i 基本 ）

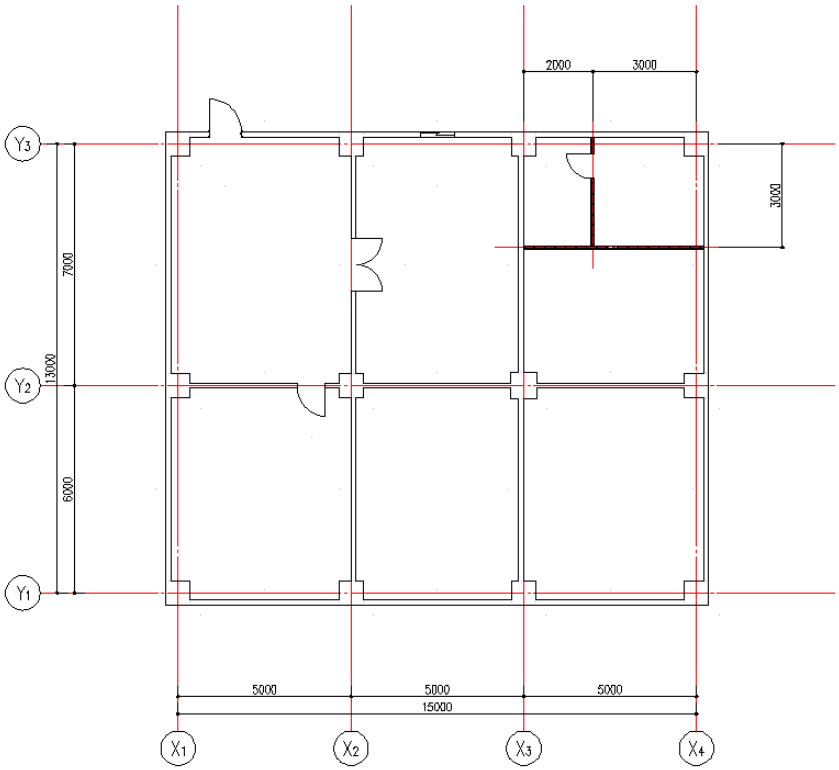
### 意匠図版 NEO i リボンメニュー（ NEO i 意匠図 ）

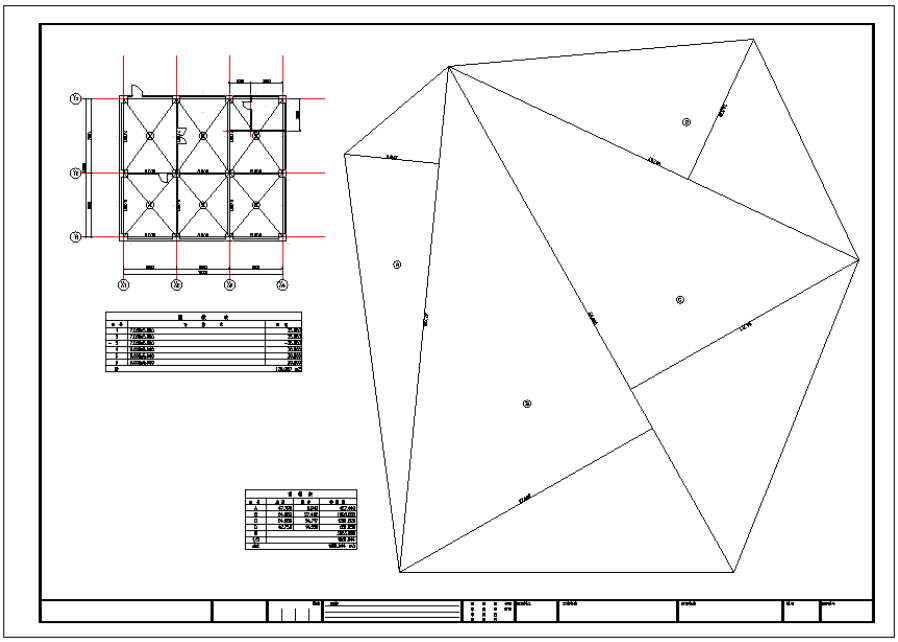
### 意匠図版 NEO i メインツールバー

第１章

# 平面図・求積図の作成

本章では、『意匠図版 adpack-NEO ｉ 』の様々な機能を使用して、下図のような平面図と求積図を作成する手順について説明します。



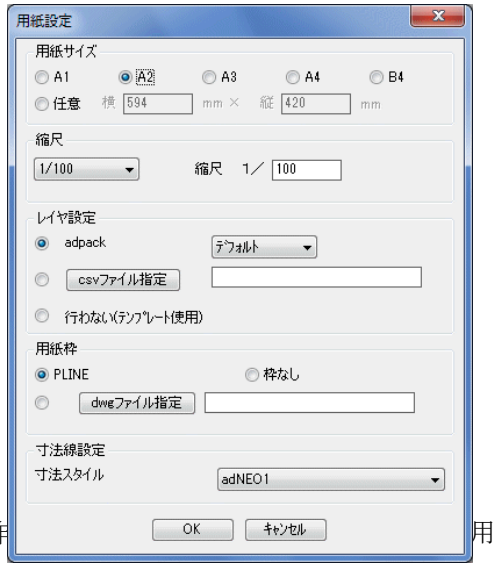



# １－１　用紙設定を行う

新規図面を開いて、下記の手順で用紙設定と設定変更を行います。

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪基本設定／UCS 他≫またはメインツールバーの≪基本設定／UCS 他≫ツールバーから、＜用紙設定／設定変更＞コマンドを選択します。

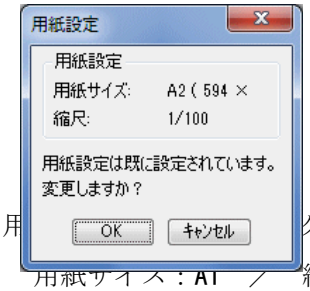
② 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・用紙サイズ：A2
・縮尺：1/100
・レイヤ設定：［adpack］－ **デフォルト**
・用紙枠：PLINE にチェック
・寸法スタイル：adNEO1

③ 作図すると用紙枠が作図されます。

④ 用紙サイズと用紙枠を変更するので、再度＜用紙設定／設定変更＞コマンドを選択します。
次のダイアログボックスが表示するので【OK】をクリックします。




⑤ 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように変更して【OK】をクリックします。
用紙サイズ：A1　／　縮尺：1/100
用紙枠：［dwg ファイル指定］にチェックしてボタンをクリック － WAKU-A1.dwg

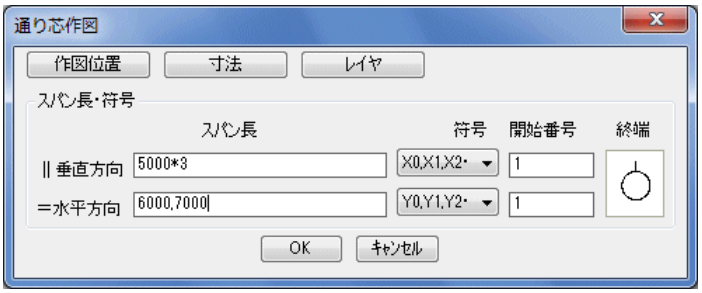
⑥ 設定した作図範囲と用紙枠に変更されます。

# １－２　通り芯を作図する

下記の手順で、通り芯を作図します。

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪意匠図一般≫またはメインツールバーの≪意匠図一般≫ツールバーから、＜基準線作図＞コマンドを選択します。

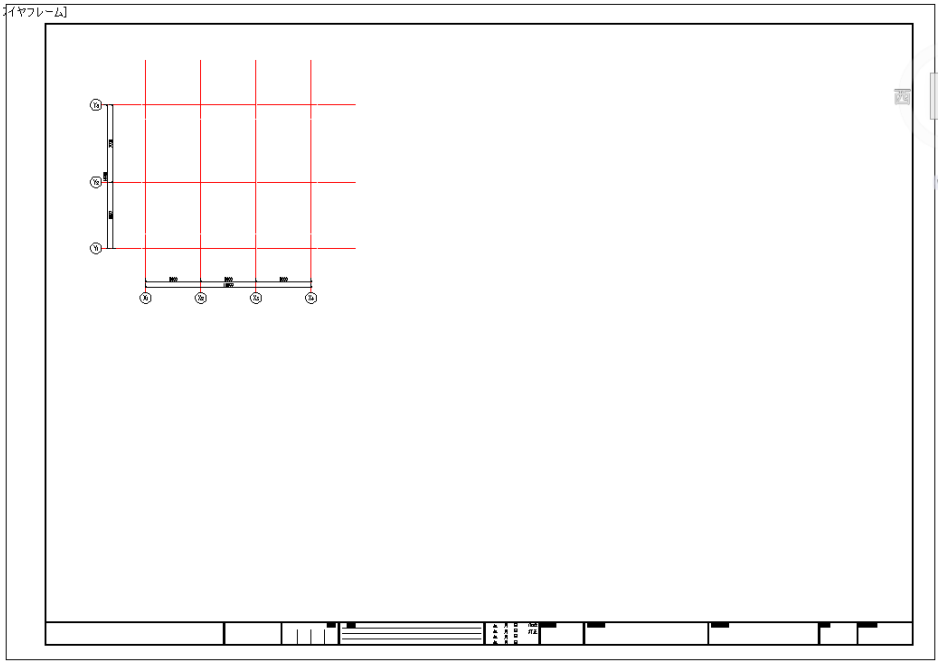
② 通り芯作図ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・垂直方向：5000*3
・水平方向：6000, 7000

他は初期値

③ 設定した通り芯が表示して左下交点がカーソルに付いてくるので、図面枠の左上に配置します。



ヒント

通り芯と符号は１つのグループで作図されます。
通り芯と符号を個別に扱う場合はグループをオフにして編集を行います。
グループのオン／オフの切り替えは、【Ctrl】＋【Shift】＋【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン／オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効です。

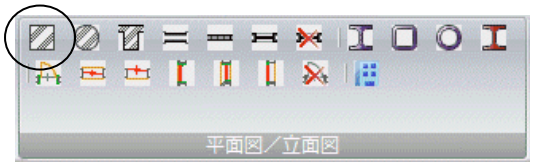
# １－３　ＲＣ柱を配置する

メモ　現在画面に表示されている位置状態の登録を行います。
（全図面が表示されていない場合は、ZOOM コマンド「A（図面全体）」を実行して下さい。）
キーボードから「V0」↵ として、現在の全図面表示のビューを登録します。
ZOOM コマンドで、通り芯全体を拡大します。キーボードから「V1」↵ として、現在のビューを登録します。
キーボードから「V0」↵「V1」↵ として、ビューを呼び出して登録を確認します。

メモ　リボンメニューの［NEO i 基本］－≪ビュー登録／呼出≫またはメインツールバーの≪ビュー登録／呼出≫ツールバーの＜V0＞＜V1＞コマンドでも同様の操作が行えます。

下記の手順で、RC柱を配置します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜RC 角柱＞コマンドを選択します。



② RC 柱作図のダイアログが表示するので、次のように設定して【一括配置】をクリックします。

・柱幅：700
・柱成：700

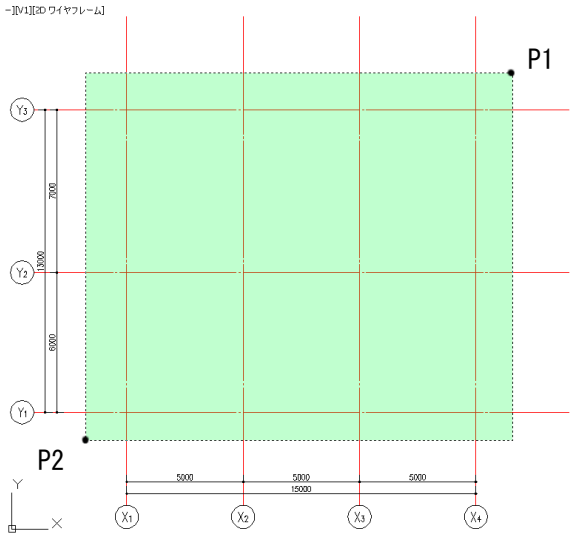
他は初期値

③ 画面上で柱を配置する通り芯を交差選択した後、↵ で図形選択を終了します。

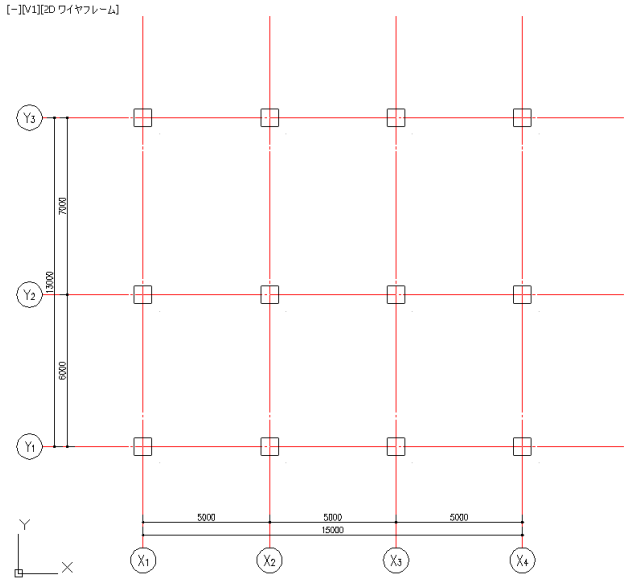
》柱を配置する通り芯を指示：（P1 を指示）

》もう一方のコーナーを指定：（P2 を指示）

》オブジェクトを選択：↵



④ 700×700 の RC 柱が一括配置されます。




ヒント

RC 角柱で作図した柱部材は、部材、符号、寸法等がオブジェクト化されます。
オブジェクト図形を個別に自由編集する場合は、グループをオフにして行います。
グループのオン／オフの切り替えは、【Ctrl】＋【Shift】＋【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン／オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効です。

ヒント

オブジェクト図形には、＜オブジェクト更新＞コマンドや＜オブジェクト編集＞コマンドが使用可能です。

ヒント

≪平面図／立面図≫のコマンドを使用して柱や壁を作図すると、柱や壁の傍に点が表示されますが、これは柱オブジェクトや壁オブジェクトの一部です。（表示していない符号位置）
グループ オフの状態では削除することもできますが、しないようにして下さい。
削除すると、＜オブジェクト更新＞や＜オブジェクト編集＞等のオブジェクト関連の編集コマンド使用時にエラーが発生して正常に機能しません。
また、この点は「DEFPOINTS レイヤー」で作図されている為、出力には影響ありません。

# １－４ 鉄骨柱の配置と削除を行う

メモ あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

下記の手順で、鉄骨柱を配置します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜H 形鋼柱＞コマンド を選択します。

② H 形鋼柱作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【個別配置】をクリックします。

・H 形鋼：**広幅**
・形状：
H400X400X13X21

他は初期値

③ 画面上で作図位置を指示します。

》柱作図位置を指示<終了>：（P1 を指示）

④ 次に作図方向を指定しますが、ここでは中心にします。（中心の場合： ↵ を入力）

》作図方向を指定/<中心>： ↵

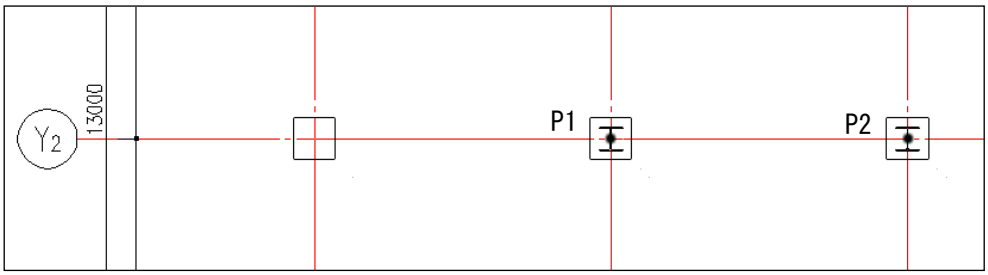
⑤ 続けて作図できるので、もう１つ作図します。

》柱作図位置を指示<終了>：（P2 を指示）

⑥ 次に作図方向（中心）を指定後、↵ でコマンドを終了します。

》作図方向を指定/<中心>： ↵

》柱作図位置を指示<終了>： ↵




メモ ダイアログボックスで数値入力した「寄り」は、作図方向を"中心"にすると反映されます。

⑦ 配置した H 形鋼柱を２つとも削除します。

IJCAD の削除コマンドまたは Delete キーで、H 形鋼柱を１点指示で選択して削除します。

メモ H形鋼柱はオブジェクト図形の為、グループ オンの場合は１点指示で選択できます。

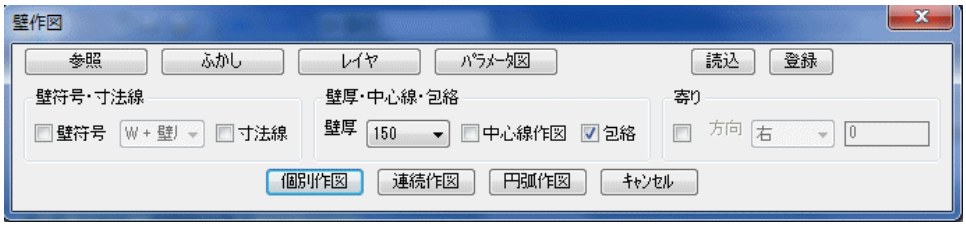
# １－５　壁を作図する

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

下記の手順で、壁を作図します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜壁作図＞コマンド を選択します。

② 壁作図のダイアログボックスが表示するので、初期値のまま【個別作図】をクリックします。




③ 外壁を作図するので、画面上で壁の始点・終点を指示します。

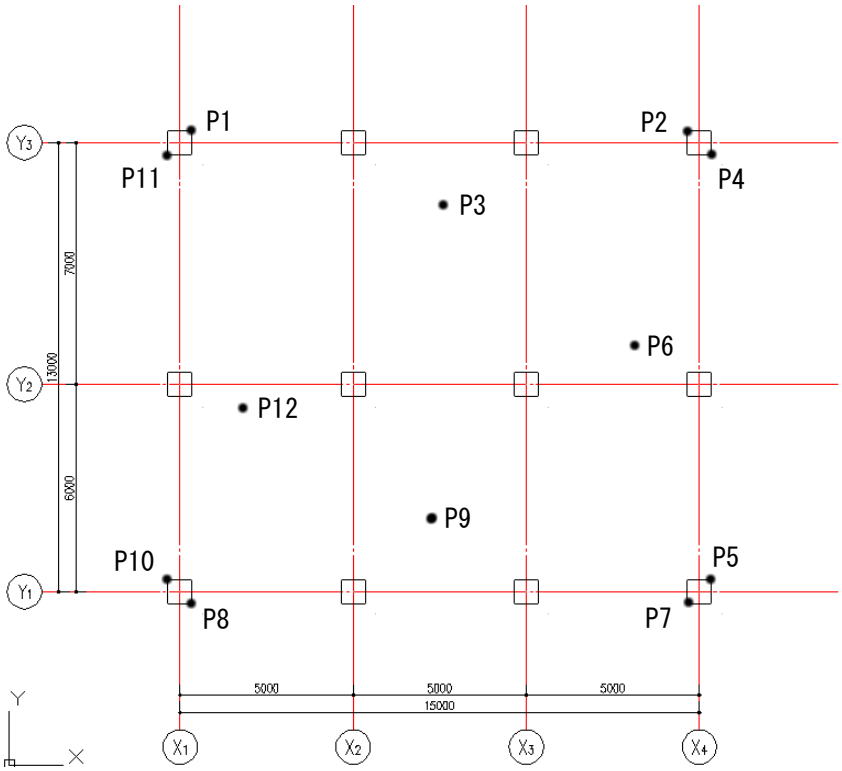
》壁作図始点を指定<終了>：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P2 を指示）

④ 次に作図方向を指定します。（中心の場合： ↵ を入力）

》作図方向を指定/<中心>：（P3 を指示）

⑤ ③④を繰り返し、P4～P6、P7～P9、P10～P12 を指示して作図します。




外壁が作図されます。続けて内壁を作図します。

⑥ Y2 通り上に作図するので、壁の始点・終点を指示します。

》壁作図始点を指定<終了>：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P2 を指示）

⑦ 次に作図方向を指定しますが、ここでは中心にします。（中心の場合：↵ を入力）

》作図方向を指定/<中心>：↵

⑧ X2 通り上に 75（壁厚の半分）の寄りを付けた壁を作図するので、壁の始点・終点を指示します。

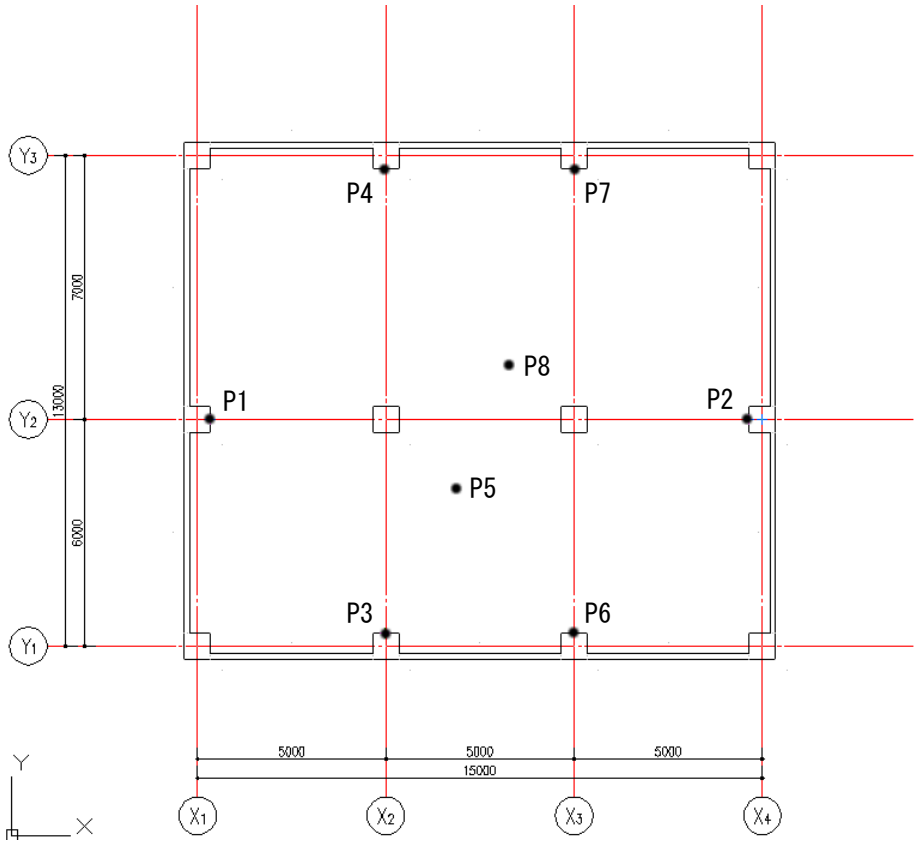
》壁作図始点を指定<終了>：（P3 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P4 を指示）

⑨ 次に作図方向を指定します。

》作図方向を指定/<中心>：（P5 を指示）

⑩ X3 通り上にも同様に作図するので、⑧⑨を繰り返し、P6～P8 を指示して壁を作図して、↵ でコマンドを終了します。




メモ ダイアログボックスで数値入力した「寄り」は、作図方向を"中心"にすると反映されます。

# １－６　間仕切壁を作図する

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

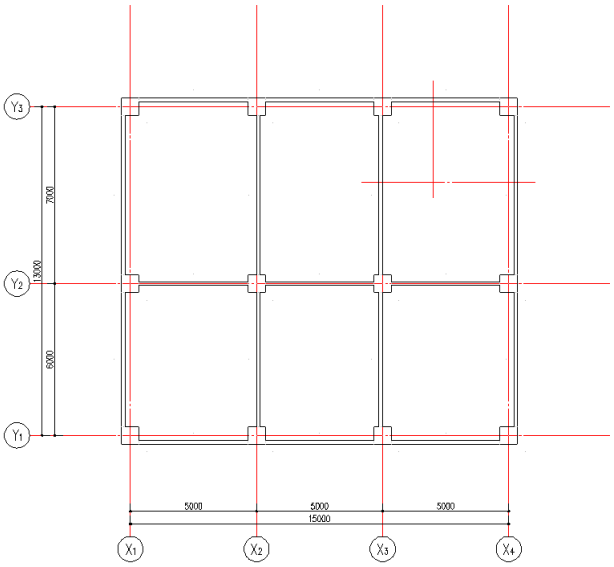
まず、間仕切壁の作図位置に補助線を作図します。

① IJCAD のオフセットコマンドを実行します。（短縮：O ）

② オフセット距離を「3000」として、X4 通りを選択して左側にオフセットします。

③ 続けて、Y3 通りを選択して下側にオフセットして、コマンドを終了します。

④ 極トラッキングをオンにしてからグリップの端点をドラッグして、下図のように補助線を短縮します。（Esc キーでグリップ解除）




下記の手順で、間仕切壁を作図します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜間仕切壁＞コマンド を選択します。

② 間仕切壁作図のダイアログボックスが表示するので、下記のように設定して【OK】をクリックします。

・タイプ：**軽鉄**
・壁厚（内部構造厚）：50
・壁厚（板厚）：20、20
・中心線作図：**チェックオフ**

他は初期値

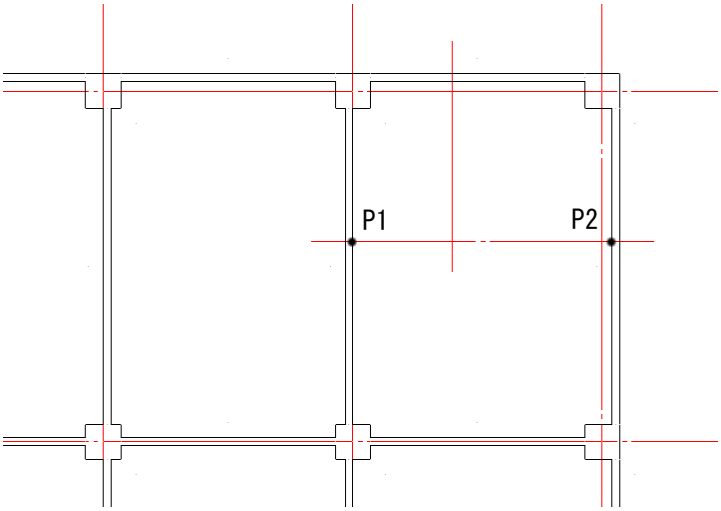
③ 水平の補助線上に 2 点指示で作図します。

》壁作図始点を指定<終了>：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P2 を指示）

④ 次に作図方向を指示します。（中心の場合： ↵ を入力）

》作図方向を指定/<中心>： ↵




⑤ 垂直の補助線上に 2 点指示で作図します。

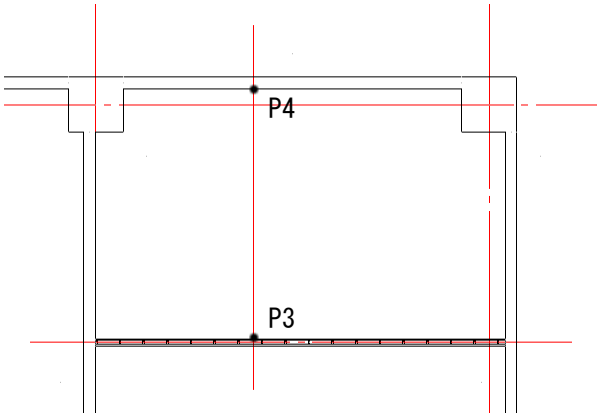
》壁作図始点を指定<終了>：（P3 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P4 を指示）

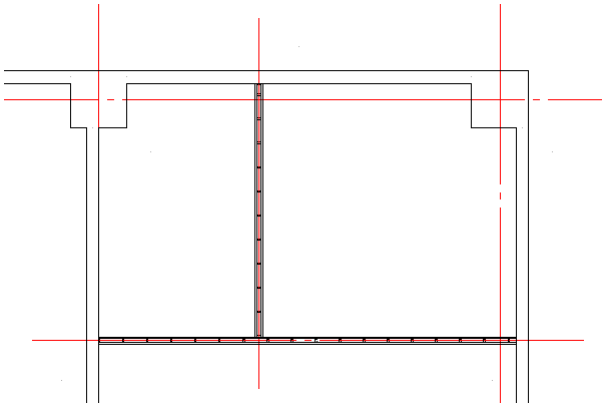
⑥ 次に作図方向を指示して、↵ でコマンドを終了します。

》作図方向を指定/<中心>： ↵

》壁作図始点を指定<終了>： ↵




⑦ 間仕切壁が作図されます。



# １－７　梁を作図する

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

下記の手順で、梁を作図します。

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜RC 梁＞コマンド を選択します。

② 梁作図のダイアログボックスが表示するので、下記のように設定して【平面作図】をクリックします。

・梁幅：同一　400
・梁成：同一　750

他は初期値

③ X1 通り上に 2 点指示で作図します。

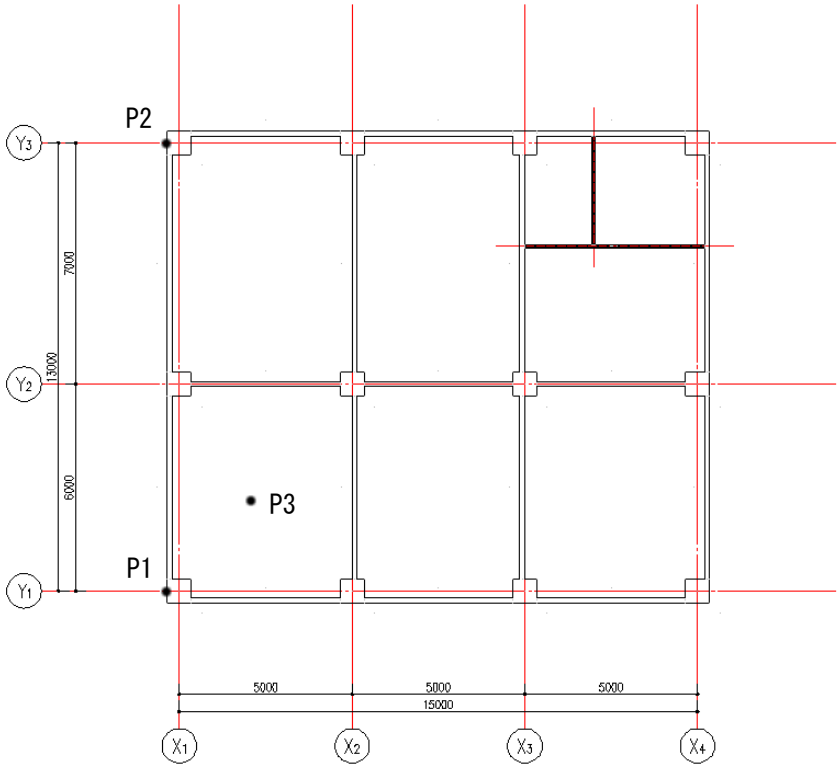
》梁作図始点を指定<終了>：（P1 を指示）

》梁作図終点を指定<終了>：（P2 を指示）

④ 次に作図方向を指示後、 でコマンドを終了します。

》作図方向を指定/<中心>：（P3 を指示）

》梁作図始点を指定<終了>：



# １－８ 建具を作図する

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

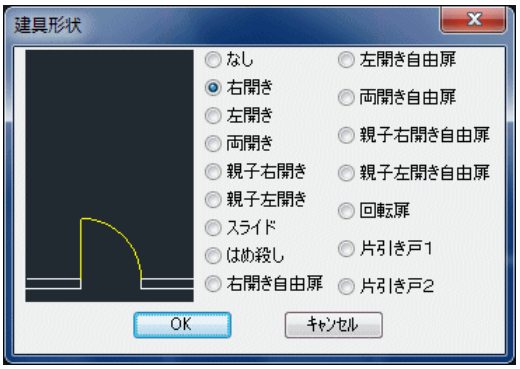
下記の手順で、建具を作図します。

（１）片開き扉（右開き）の配置１

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜建具＞コマンド を選択します。

② 開口作図のダイアログボックスが表示するので、【建具形状】をクリックします。

③ 建具形状のダイアログボックスが表示するので、初期値の「右開き」のまま【OK】をクリックします。（開口作図のダイアログボックスに戻ります。）




④ 【枠形状】をクリックして枠形状のダイアログボックスを開いて、初期値の「タイプ１」のまま【OK】をクリックします。（開口作図のダイアログボックスに戻ります。）

⑤ ［開口幅］のリストから「**任意**」を選択すると、開口幅のダイアログが開くので「900」に設定して【OK】をクリックします。

メモ　上記の操作で［開口幅：900］がリストに追加されます。

⑥［位置合わせ］は初期値の「左」、他も初期値のまま【任意配置】をクリックします。

⑦ Y3 通りの壁に配置するので、画面上で壁オブジェクトを指示します。

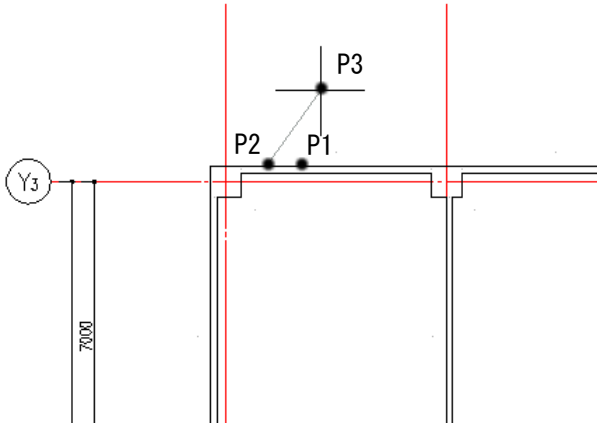
》壁オブジェクトを指示：（P1 を指示）

⑧ 次に開口の配置基準点を指示します。

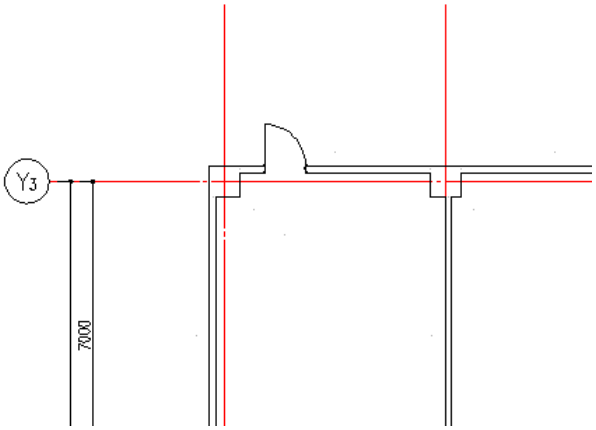
》開口の位置を指示：（P2 を指示）

⑨ 最後に配置方向を指示します。

》開口の配置方向を指示：（P3 を指示）




⑩ 開口幅：900 の片開き扉（右開き）が配置されます。



（２）片開き扉（右開き）の配置２

① ＜建具＞コマンド を選択して、開口作図のダイアログボックスを開きます。

② 【枠形状】をクリックして枠形状のダイアログボックスを開き、「なし」を選択して【OK】をクリックします。

③ ［開口幅］は「800」、他は初期値のまま【任意配置】をクリックします。

④ Y2 通りの壁に配置するので、画面上で壁オブジェクトを指示します。

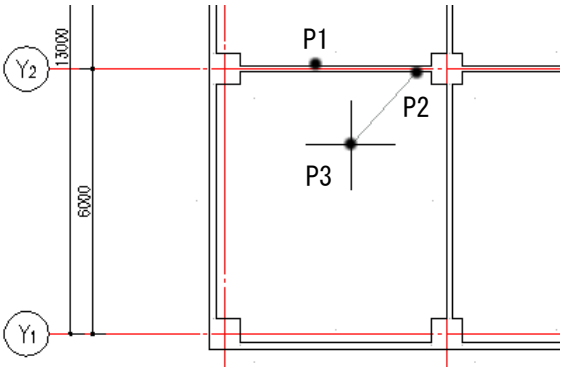
》壁オブジェクトを指示：（P1 を指示）

⑤ 次に開口の配置基準点を指示します。

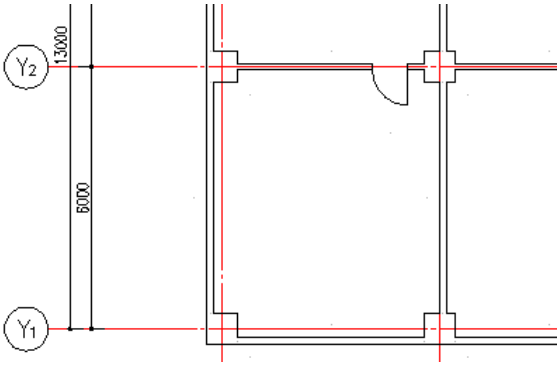
》開口の位置を指示：（P2 を指示）

⑥ 最後に配置方向を指示します。

》開口の配置方向を指示：（P3 を指示）




⑦ 開口幅：800 の片開き扉（右開き）が配置されます。



（３）両開き扉の配置

① ＜建具＞コマンド を選択して、開口作図のダイアログボックスを開きます。

② 【建具形状】をクリックして建具形状ダイアログボックスを開き、「両開き」を選択して【OK】をクリックします。

③ ［開口幅］は「1500」、［位置合わせ］は「中」を選択して、他は初期値のまま【2 点間中心】をクリックします。

④ X2 通りの壁の中心に配置するので、画面上で壁オブジェクトを指示します。

》壁オブジェクトを指示：（P1 を指示）

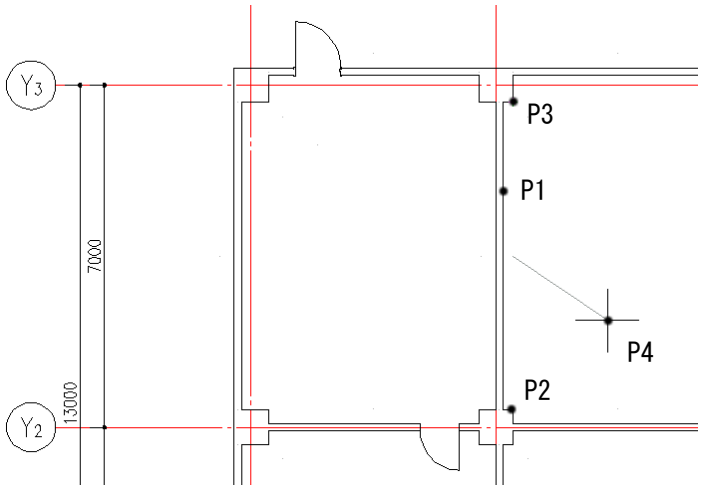
⑤ 次に開口の配置基準点を２点指示します。

》開口の配置基準１点目を指示：（P2 を指示）

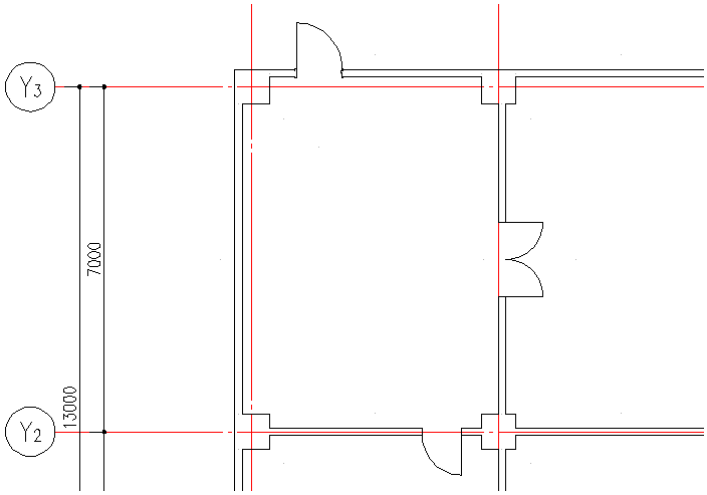
》開口の配置基準２点目を指示：（P3 を指示）

⑥ 最後に配置方向を指示します。

》開口の配置方向を指示：（P4 を指示）




⑦ 壁の中心に、開口幅：1500 の両開き扉が配置されます。



（4）スライド窓の配置

① ＜建具＞コマンド を選択して、開口作図のダイアログボックスを開きます。

② 【建具形状】をクリックして建具形状ダイアログボックスを開き、「スライド」を選択して【OK】をクリックします。

③ ［開口幅］は「1000」、［開口部内法高さ］は「1800」、［開口部下端］は「**任意**」→「900」に設定します。

④ ［位置合わせ］は「**中**」、［腰壁］に**チェック**して、他は初期値のまま【2 点間中心】をクリックします。

⑤ Y3 通りの壁の中心に配置するので、画面上で壁オブジェクトを指示します。

》壁オブジェクトを指示：（P1 を指示）

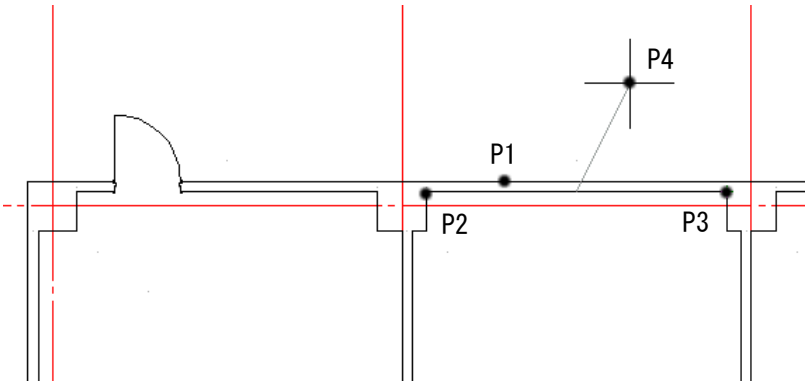
⑥ 次に開口の配置基準点を２点指示します。

》開口の配置基準１点目を指示：（P2 を指示）

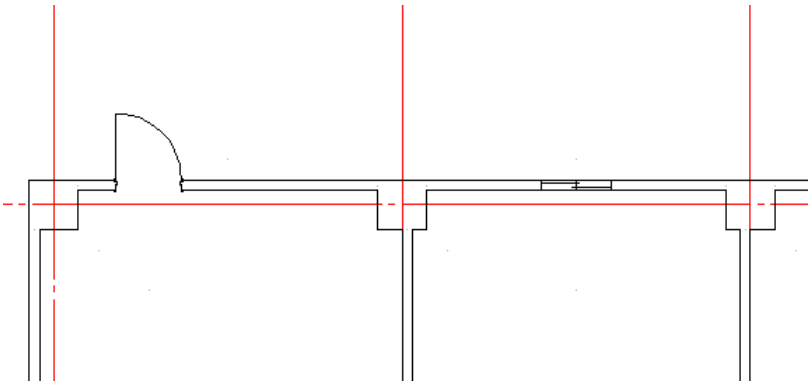
》開口の配置基準２点目を指示：（P3 を指示）

⑦ 最後に配置方向を指示します。

》開口の配置方向を指示：（P4 を指示）



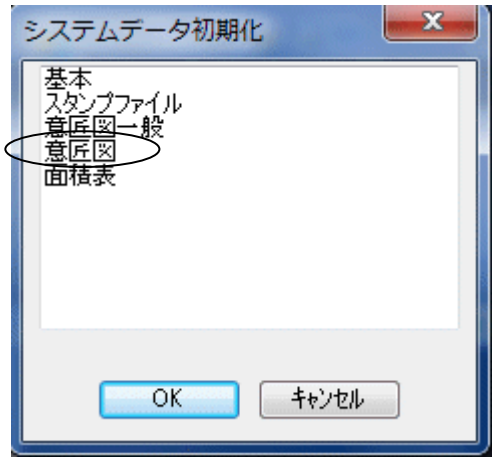

⑧ 壁の中心に、開口幅：1000 のスライド窓が配置されます。



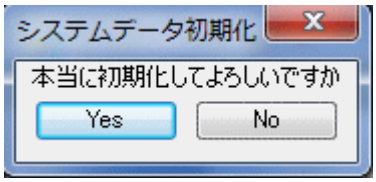
＜建具＞を含む意匠図コマンドのダイアログボックス内の設定値を初期値に戻します。
下記の手順でシステムデータの初期化を行います。

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪基本設定／UCS 他≫またはメインツールバーの≪基本設定／UCS 他≫ツールバーから、＜システムデータの初期化＞コマンドを選択します。

② 下記のダイアログボックスが表示するので、システムデータ「意匠図」をリストから選択して【OK】をクリックします。




③ 最終確認ダイアログボックスが表示するので、確認後【Yes】をクリックします。




（５）片開き扉（左開き）の配置１

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜建具＞コマンド を選択して、開口作図のダイアログボックスを開きます。

② ［開口部内法高さ］や［開口部下端］等が初期値になっていることを確認します。【建具形状】をクリックして建具形状ダイアログボックスを開き、「左開き」を選択して【OK】をクリックします。

③ 【枠形状】をクリックして枠形状のダイアログボックスを開き、「なし」を選択して【OK】をクリックします。

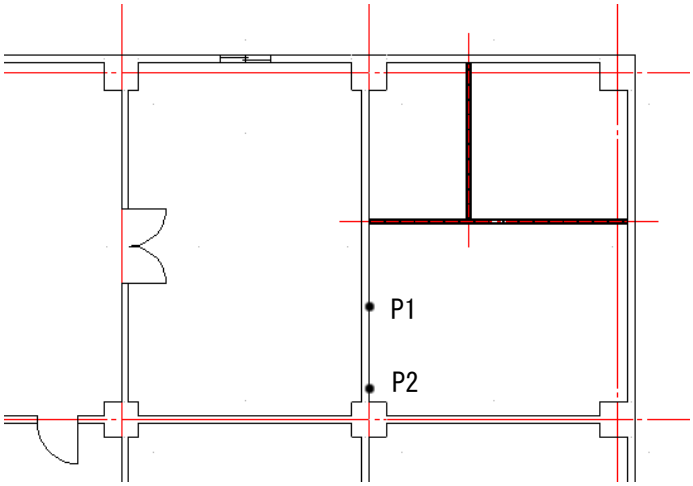
④ ［開口幅］は「800」、［位置合わせ］は「右」、他は初期値のまま【任意配置】をクリックします。

⑤ X3 通りの壁に配置するので、画面上で壁オブジェクトを指示します。

》壁オブジェクトを指示：（P1 を指示）

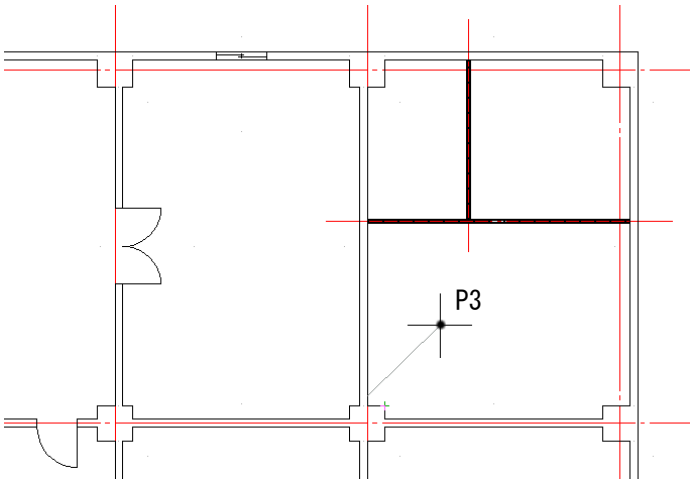
⑥ 開口の配置基準点は、壁と柱の交点から上に少し離れた位置を指示します。

》開口の位置を指示：（P2 を指示）

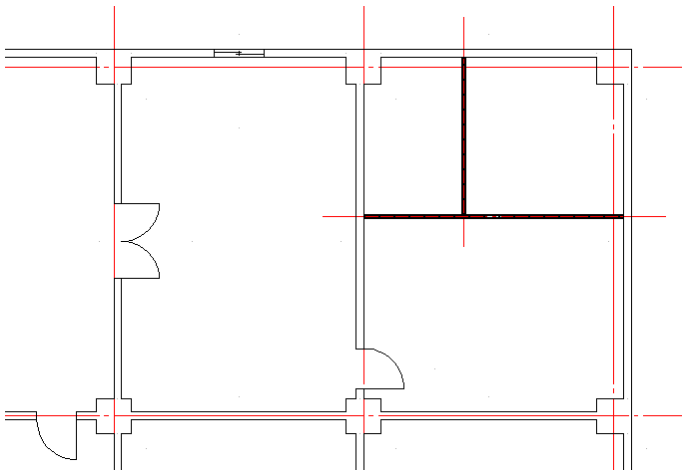



⑦ 最後に配置方向を指示します。

》開口の配置方向を指示：（P3 を指示）




⑧ 開口幅：800 の片開き扉（左開き）が配置されます。



（６）片開き扉（左開き）の配置２

① ＜建具＞コマンド を選択して、開口作図のダイアログボックスを開きます。

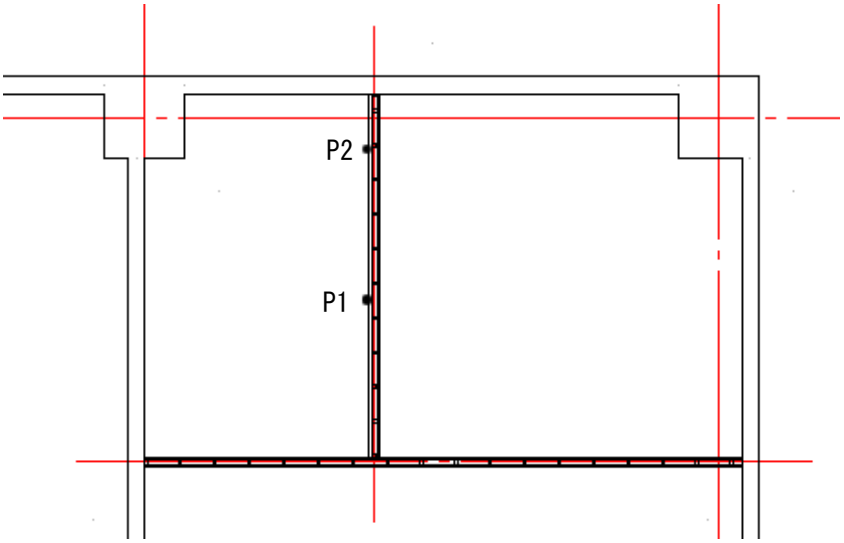
② ［開口幅］は「**任意**」→「700」、他は初期値のまま【任意配置】をクリックします。

③ 垂直方向の間仕切壁に配置するので、画面上で壁オブジェクトを指示します。

》壁オブジェクトを指示：（P1 を指示）

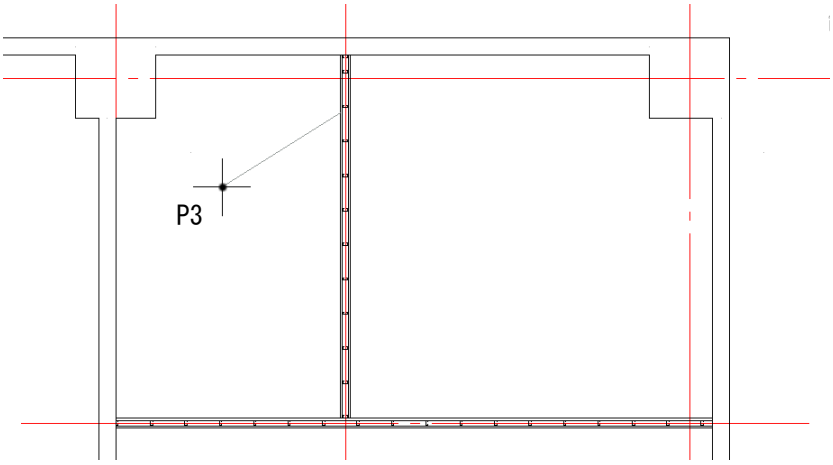
④ 開口の配置基準点は、Y3 通りの壁から下に少し離れた位置を指示します。

》開口の位置を指示：（**P2 を指示**）

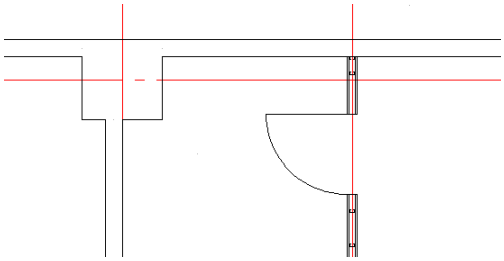



⑤ 最後に配置方向を指示します。

》開口の配置方向を指示：（P3 を指示）




⑥ 開口幅：700 の片開き扉（左開き）が配置されます。



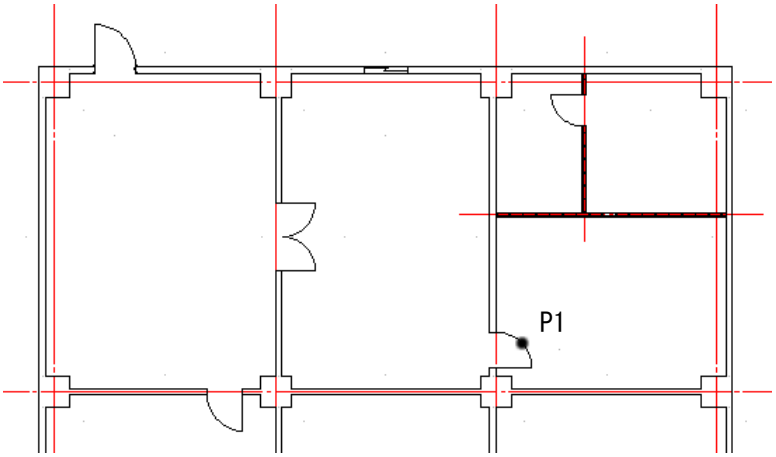
# １－９ 建具を削除する

下記の手順で、建具の削除を行います。

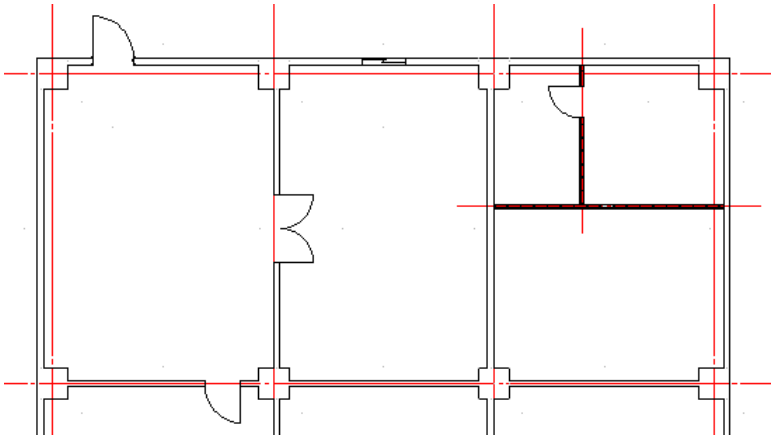
① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜建具削除＞コマンド を選択します。

② X3 通り上にある建具オブジェクトを削除するので、1 点指示で選択します。

》削除する建具を指示：（P1 を指示）




③ 選択した建具オブジェクトが削除されて、壁が復帰します



注意 本コマンドで処理できる建具は、１回につき１つの建具のみです。

注意 IJCAD のコマンドを使用して建具を削除した場合、壁は復帰されません。

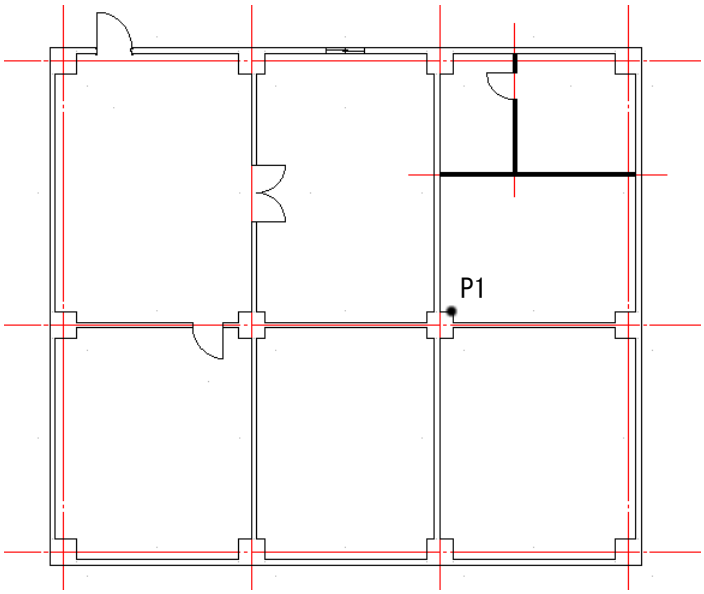
# １－１０　ＲＣ柱のサイズを変更する

下記の手順で、RC柱のサイズ変更を行います。

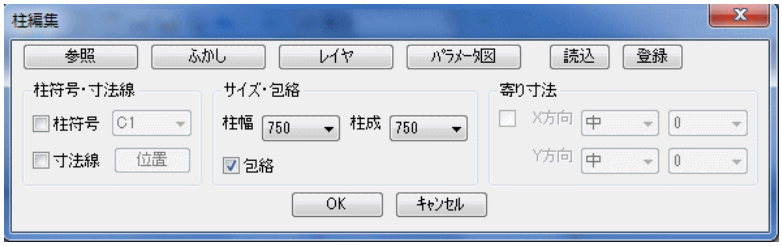
① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪意匠図一般≫またはメインツールバーの≪意匠図一般≫ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンド ED を選択します。

② サイズを変更する柱オブジェクトを選択します。

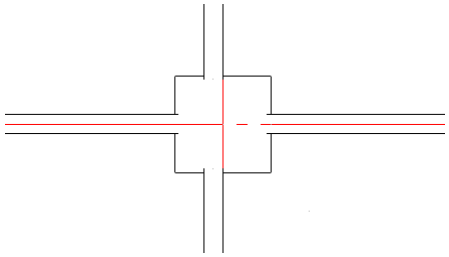
》編集するオブジェクトを指示：（P1 を指示）




③ RC 角柱メインダイアログボックスが表示するので、柱幅「750」柱成「750」に変更して【OK】をクリックします。




④ 選択した柱のサイズが「750×750」に変更されます。



メモ　部材を選択すると、各部材オブジェクトのダイアログが表示されます。

注意　寄りは反映されません。サイズ編集後に柱の移動、壁の端点移動を行ってください。

# １－１１ 変更したＲＣ柱と周囲の壁との包絡を修正する

＜オブジェクト更新＞コマンドを使用して柱と壁を再作図させますが、部分的に更新する場合は、再作図の範囲を小さくする為に、グループをオフに設定します。

【Ctrl】＋【Shift】＋【A】キーを押して、グループをオフにします。

メモ グループ オフの状態でも部材オブジェクトの配置は可能です。
必ずしもグループ オンの状態にしておく必要はありません。

下記の手順で、RC柱と壁の包絡を修正します。

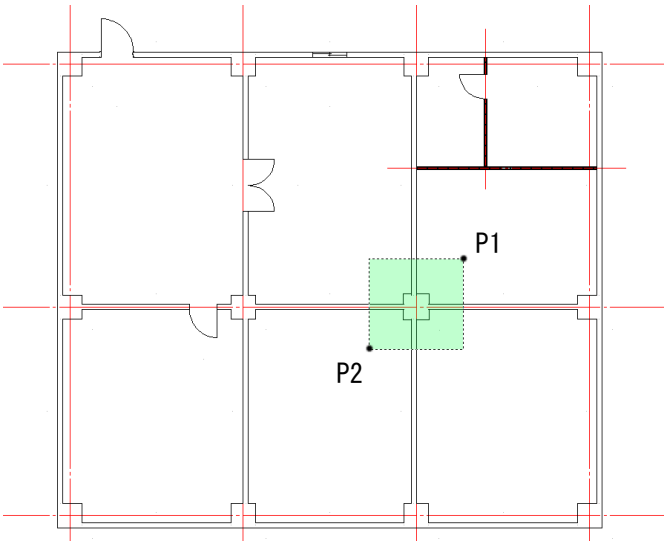
① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪意匠図一般≫またはメインツールバーの≪意匠図一般≫ツールバーから、＜オブジェクト更新＞コマンド を選択します。

② 更新する柱と 4 方向の壁を交差選択した後で、 で図形選択を終了します。

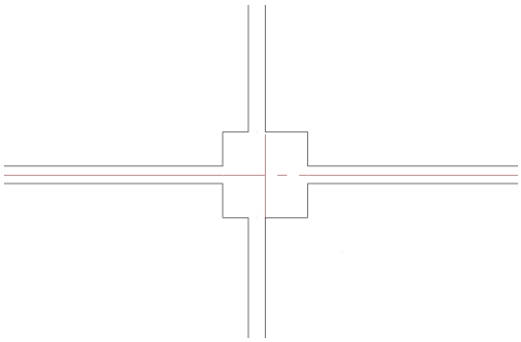
》オブジェクトを選択：（P1 を指示）

》もう一方のコーナーを指定：（P2 を指示）

》オブジェクトを選択：




③ 選択した柱と壁オブジェクトが再作図されて、包絡の状態が更新されます。



# １－１２　間仕切壁位置の寸法を作図する

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］と［極トラッキング オン］に設定しておきます。

下記の手順で、寸法線の作図を行います。

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪寸法≫またはメインツールバーの≪寸法≫ツールバーから＜一括寸法＞コマンドを選択します。

② 寸法を測定する位置を指示後、⏎ で寸法作図する点の指示を終了します。

》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：(P1 を指示)

》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：(P2 を指示)

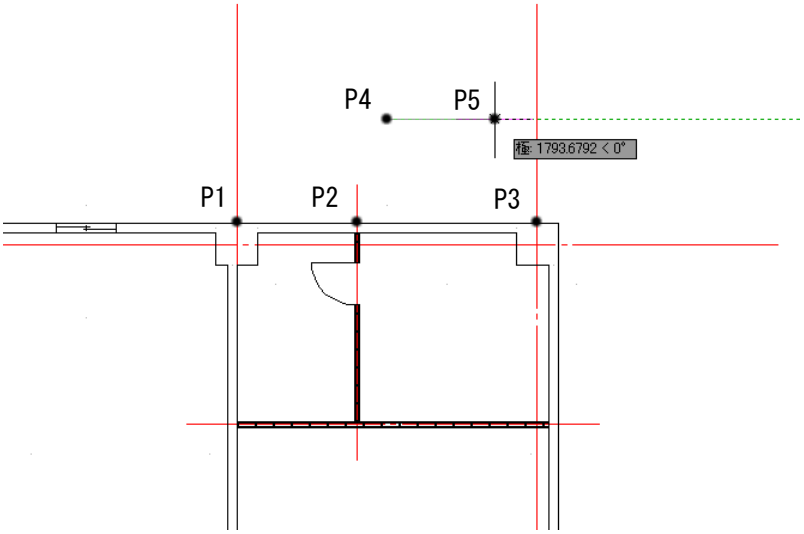
》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：(P3 を指示)

》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：⏎

③ 寸法線を作図する位置を 2 点指示で指定します。

》寸法線を作図する位置を 1 点目を指示：(P4 を指示)

》寸法線を作図する位置を 2 点目を指示：(P5 を指示)




④ 水平方向の寸法線が作図されます。

⑤ 再度、＜一括寸法＞コマンド を選択して、垂直方向の寸法線を作図します。

⑥ 寸法を測定する位置を指示後、↵ で寸法作図する点の指示を終了します。

》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：（P6 を指示）

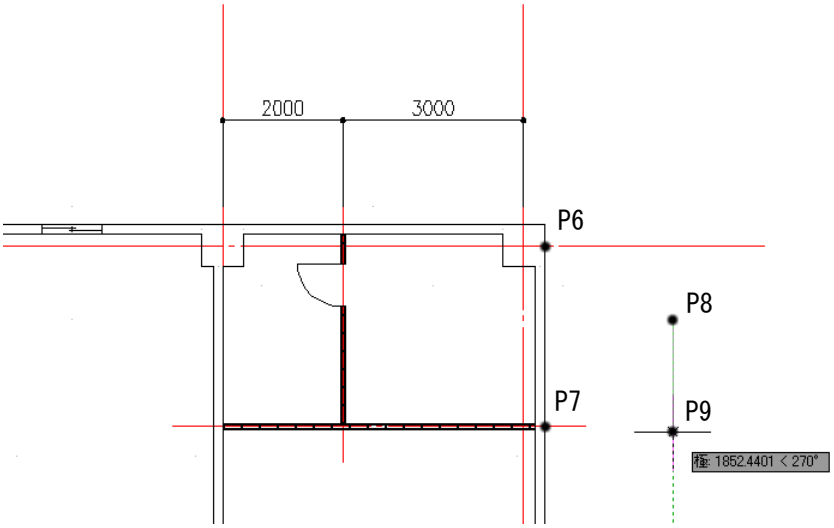
》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：（P7 を指示）

》寸法作図する点を指示(Enter=終了)：↵

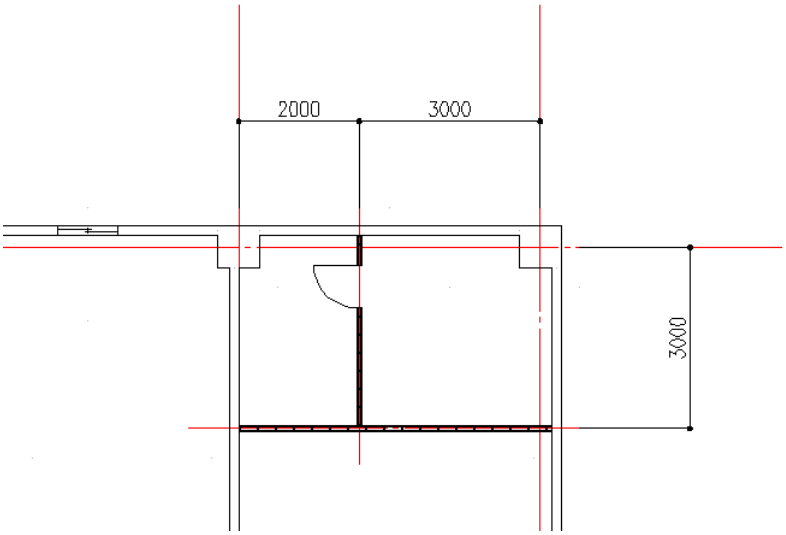
⑦ 寸法線を作図する位置を 2 点指示で指定します。

》寸法線を作図する位置を 1 点目を指示：（P8 を指示）

》寸法線を作図する位置を 2 点目を指示：（P9 を指示）




⑧ 垂直方向の寸法線が作図されます。




ヒント

＜一括寸法＞コマンドは斜め寸法の作図も行えますが、斜め寸法の場合、寸法線を作図する位置で 1 点目と 2 点目に指定した点が、寸法線の角度になります。
また、“寸法線を作図する位置を指示”で指定した点が作図位置となります。

メモ

キーボードから「V1」↵ として、通り芯全体のビューを呼び出します。

# １－１３　求積図・面積表を作成する

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

下記の手順で、求積図及び面積表を作成します。

（１）求積図１（床面積）の作成

〈1〉設定変更

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜設定変更＞コマンドを選択します。

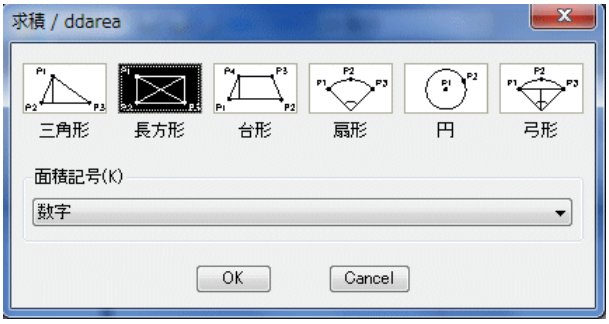
② 設定変更のダイアログボックスが表示するので、［単位］を「**メートル単位有**」に、［桁数］を「0.000」に設定して、他は初期値のまま【OK】をクリックします。

メモ　この内容は、変更後に作図した求積図形や面積表、ポリライン計測の結果値等に反映されます。また、ダイアログボックスで行われた設定はシステムを終了しても記憶されています。

〈2〉求積図作成

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜求積＞コマンド を選択します。

② 求積のダイアログボックスが表示するので、「**長方形**」を選択して、面積記号は「**数字**」のまま【OK】をクリックします。

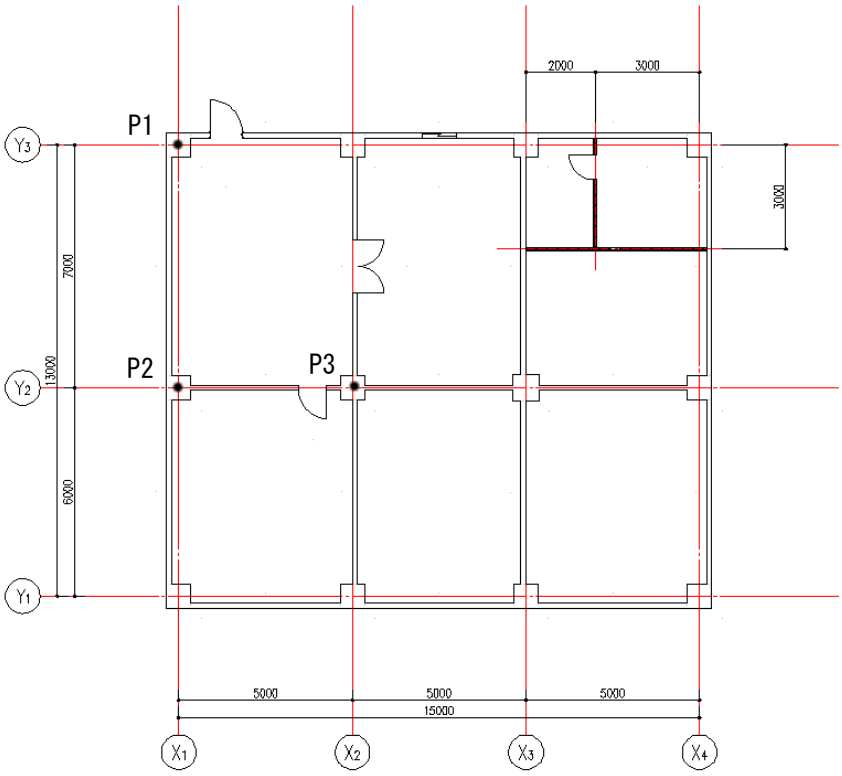


③ ダイアログボックスにある長方形の順番通り、求積位置を指示します。

》p1 を指示（RETURN=終了）：（P1 を指示）

》p2 を指示：（P2 を指示）

》p3 を指示：（P3 を指示）

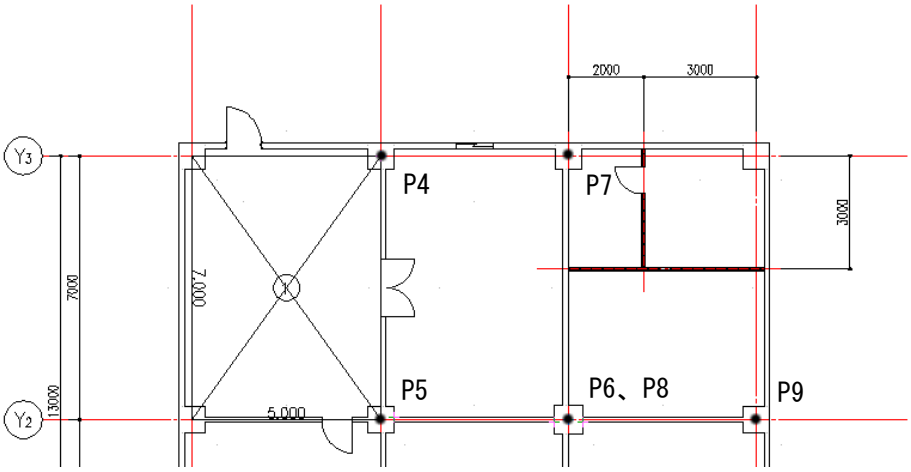



④ 指示したエリアの求積番号「１」を ↵ で指定します。

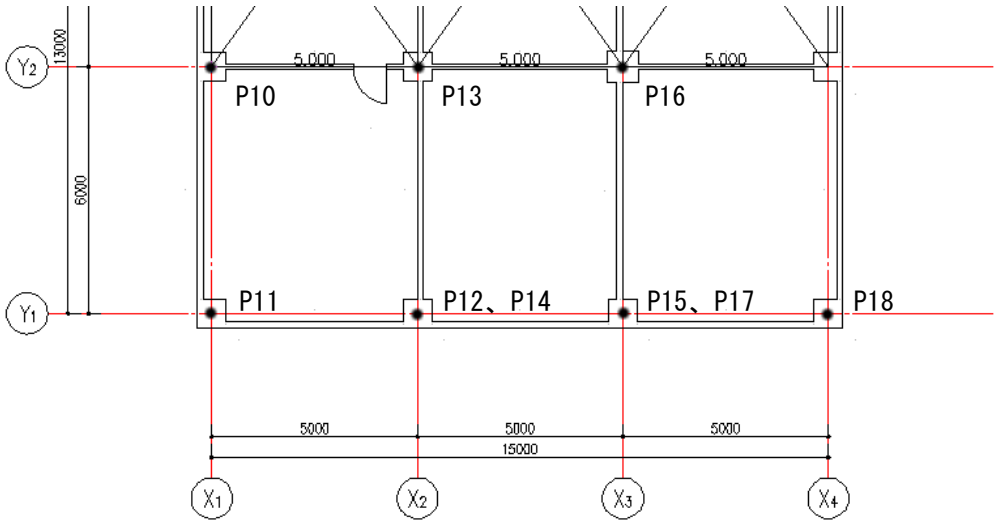
》記号を入力<1>：↵

⑤ 続けて長方形求積を行うので、同様の操作で P4～P6 を指示し、求積番号「２」を ↵ で指定します。同様に P7～P9 を指示して求積番号を ↵ で指定します。

求積エリア「２」「３」が作成されます。



⑥ 続けて、P10～P12 ↵ 、P13～P15 ↵ 、P16～P18 ↵ として求積を行います。
求積エリア「４」「５」「６」が作成されるので、↵でコマンドを終了します。



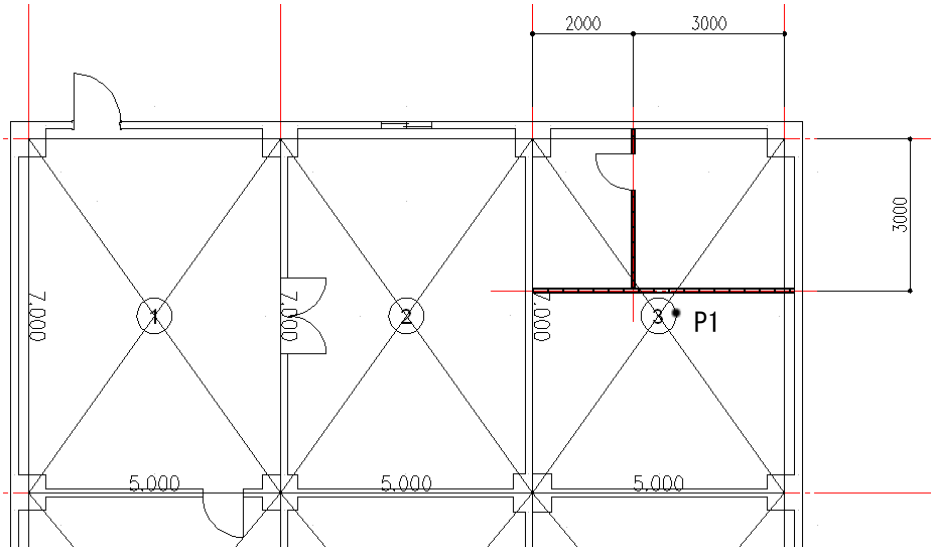

〈3〉 符号変更

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜符号変更＞コマンド を選択します。

② 変更を行う面積記号「３」を指示して、↵で図形選択を終了します。

》オブジェクトを選択： (P1 を指示)

》オブジェクトを選択： ↵




③ キーボードから新しく設定する符号「－」を入力します。

》新しい符号を入力(+ または -)〈+〉： － ↵

メモ このコマンドで変更されるのは属性値です。画面上での変化はありません。

（２）床面積表の作成

メモ　キーボードから「VO」↵として、全図面表示のビューを呼び出します。

メモ　現在層を MOJI レイヤーに変更します。

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜床面積 自動作表＞コマンド を選択します。

② 集計を行う面積記号を窓選択で一括指示して、↵で図形選択を終了します。

》面積記号を指示（RETURN=終了）：

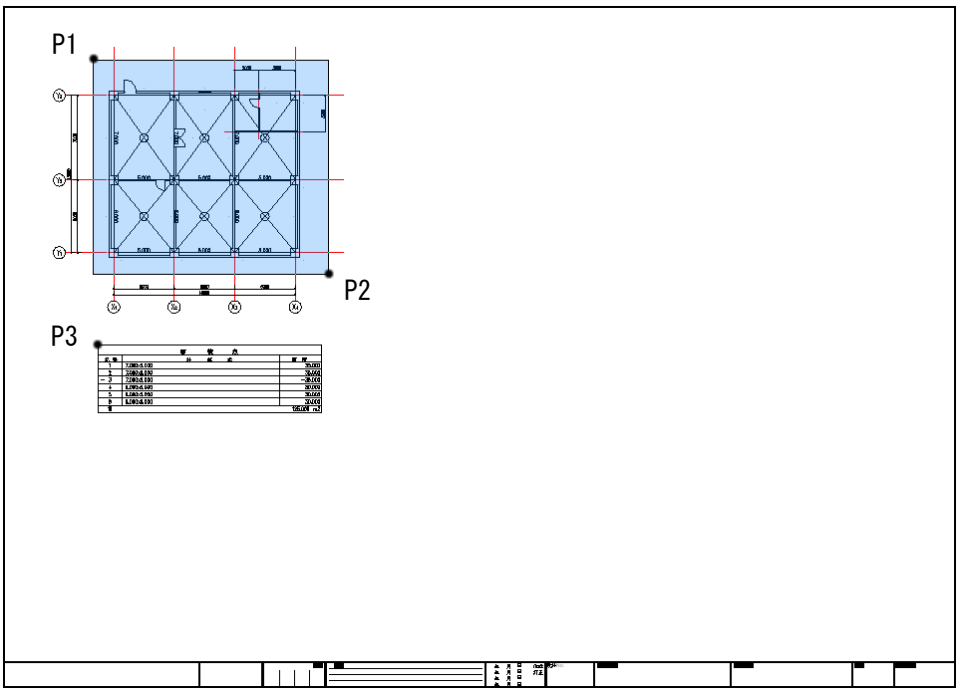
》オブジェクトを選択：（P1 を指示）

》もう一方のコーナーを指定：（P2 を指示）

》オブジェクトを選択：↵

③ 面積表の挿入点を指示します。

》挿入点を指示（RETURN=放棄）：（P3 を指示）




④ 自動的に既定のフォーマットで床面積表が作図されます。（フォーマットは固定です。）

面積表を拡大して、記号「３」がマイナスになっていることや、桁数が小数点以下３桁になっていることを確認します。

| 面　積　表 | | |
|---|---|---|
| 記　号 | 計　算　式 | 面　積 |
| 1 | 7.000x5.000 | 35.000 |
| 2 | 7.000x5.000 | 35.000 |
| － 3 | 7.000x5.000 | －35.000 |
| 4 | 6.000x5.000 | 30.000 |
| 5 | 6.000x5.000 | 30.000 |
| 6 | 6.000x5.000 | 30.000 |
| 計 | | 125.000　m2 |

（３）求積図２（敷地面積）の作成

メモ　キーボードから「V0」↵として、全図面表示のビューを呼び出します。

〈1〉敷地境界線作図

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜ポリライン－作図＞コマンド を選択します。

② 多角形の敷地境界線を作図するので、領域の頂点を順に指示して最後に ↵を入力します。
ポリラインで求積領域が作図されます。

》始点を指示（RETURN=終了）：（P1 を指示）

》次の点を指示（RETURN=指示終了）：（P2 を指示）

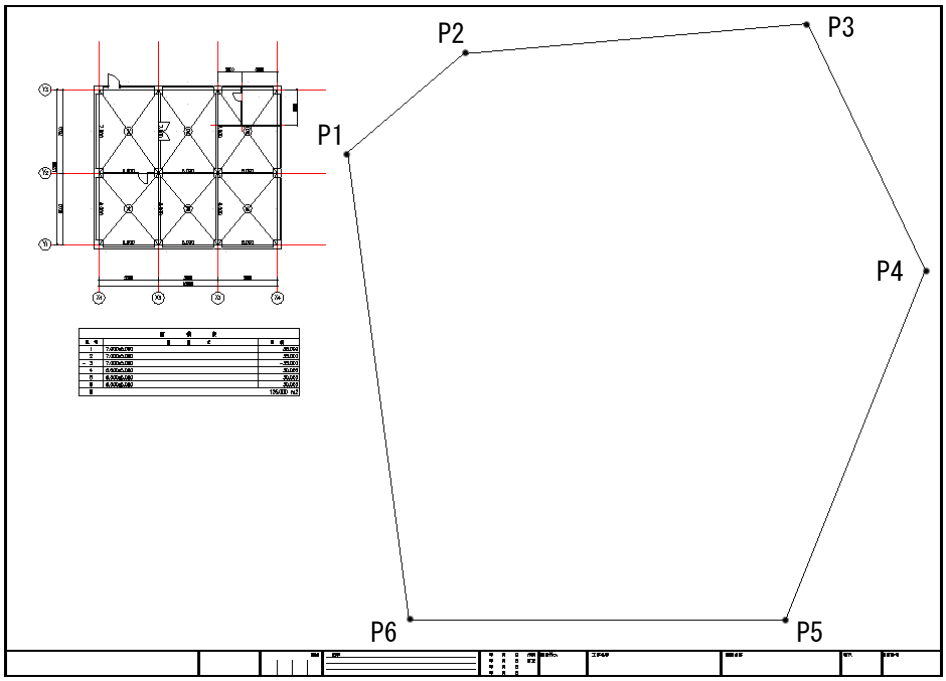
》次の点を指示（RETURN=指示終了）：（P3 を指示）

》次の点を指示（RETURN=指示終了）：（P4 を指示）

》次の点を指示（RETURN=指示終了）：（P5 を指示）

》次の点を指示（RETURN=指示終了）：（P6 を指示）

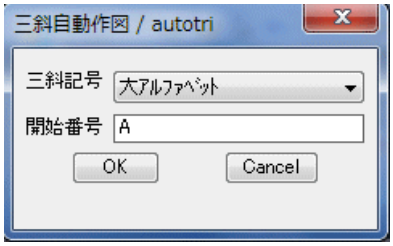
》次の点を指示（RETURN=指示終了）：↵



〈2〉三斜図形自動作図

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜三斜自動＞コマンド を選択します。

② 三斜自動作図のダイアログボックスが表示するので、［三斜記号］を「**大アルファベット**」に、三斜記号の［開始番号］を「A」に設定して、【OK】をクリックします。

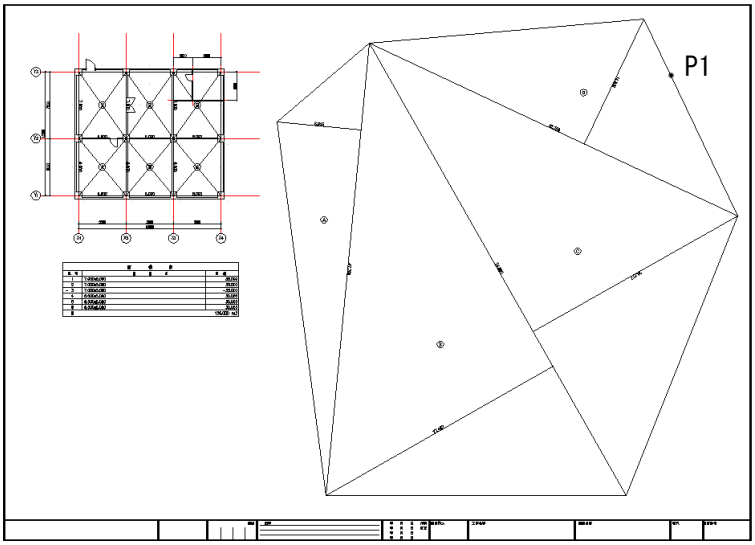



③ 閉領域を選択して、 で選択終了します。閉領域内に三斜図形が作図されます。

》三斜図形を作図する閉領域を選択（RETURN=終了）：（P1 を指示）

》この三斜割でよろしいですか(Y or N)<N>：Y

》三斜図形を作図する閉領域を選択（RETURN=終了）：




メモ 上記で<N>を選択すると、プレビューで次の三斜図形が表示されるので三斜割を選択することができます。

（4）敷地面積表の作成

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪面積表≫またはメインツールバーの≪面積表≫ツールバーから、＜敷地面積 自動作表＞コマンド を選択します。

② 集計を行う面積記号を交差選択で一括指示して、 で選択終了します。

》面積記号を指示（RETURN=終了）：

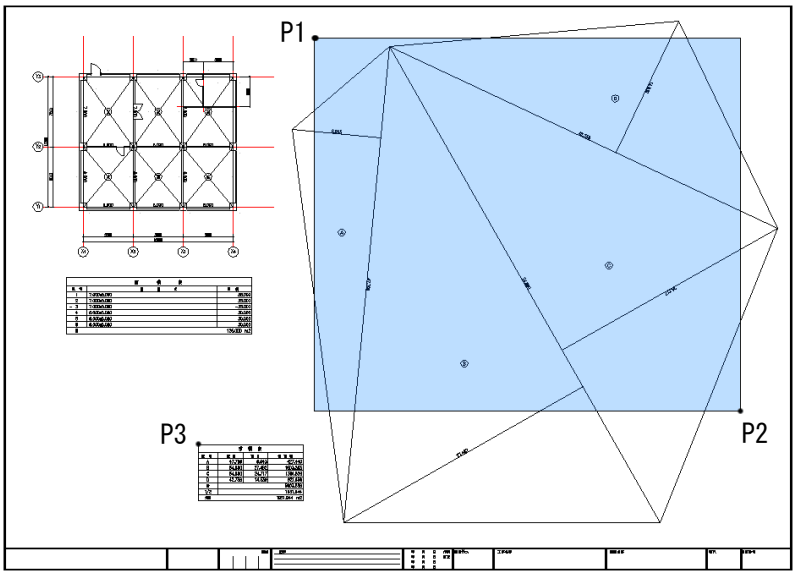
》オブジェクトを選択：（P1 を指示）

》もう一方のコーナーを指定：（P2 を指示）

》オブジェクトを選択：

③ 面積表の挿入点を指示します。

》挿入点を指示（RETURN=放棄）：（P3 を指示）




④ 自動的に既定のフォーマットで敷地面積表が作図されます。（フォーマットは固定です。）

面積表を拡大して、記号がアルファベットの大文字Ａから始まっていることや、桁数が小数点以下３桁になっていることを確認します。

| 求　積　表 | | | |
|---|---|---|---|
| 記　号 | 底 辺 | 高 さ | 倍 面 積 |
| A | 47.796 | 8.943 | 427.440 |
| B | 54.680 | 27.492 | 1503.263 |
| C | 54.680 | 24.717 | 1351.526 |
| D | 42.758 | 14.539 | 621.659 |
| 計 | | | 3903.888 |
| 1/2 | | | 1951.944 |
| 地積 | | | 1951.944　m2 |

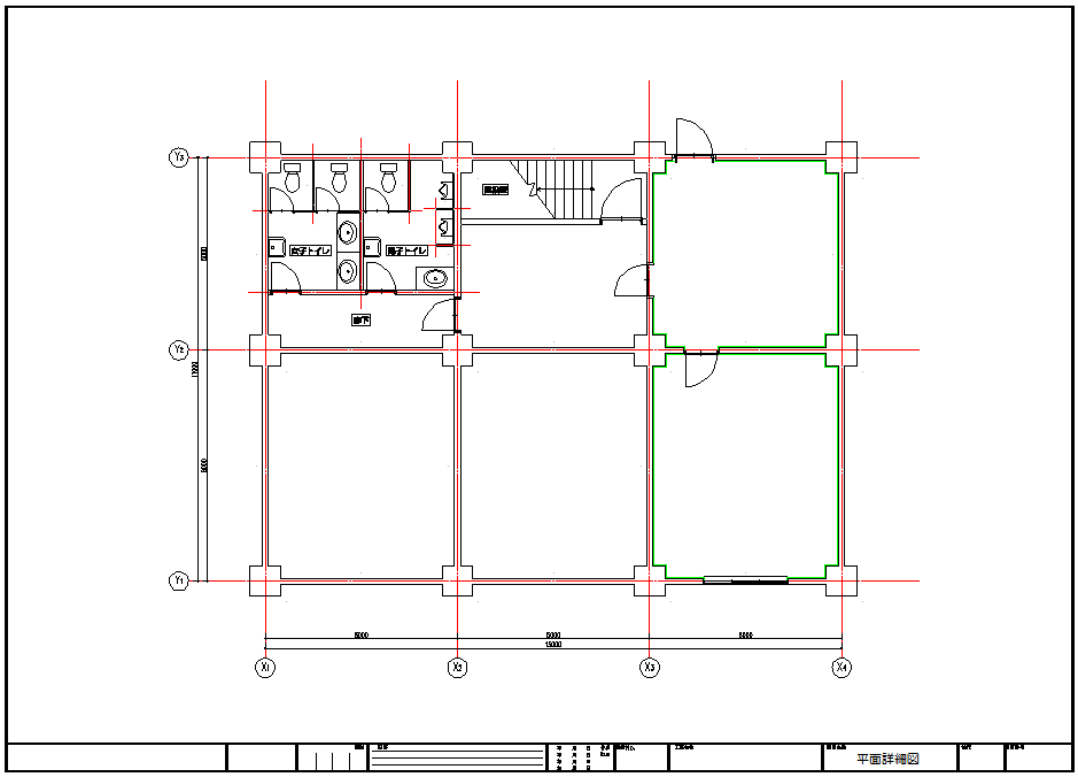
図面全体ズームを実行した後で、IJCAD の［名前を付けて保存］コマンドを実行します。

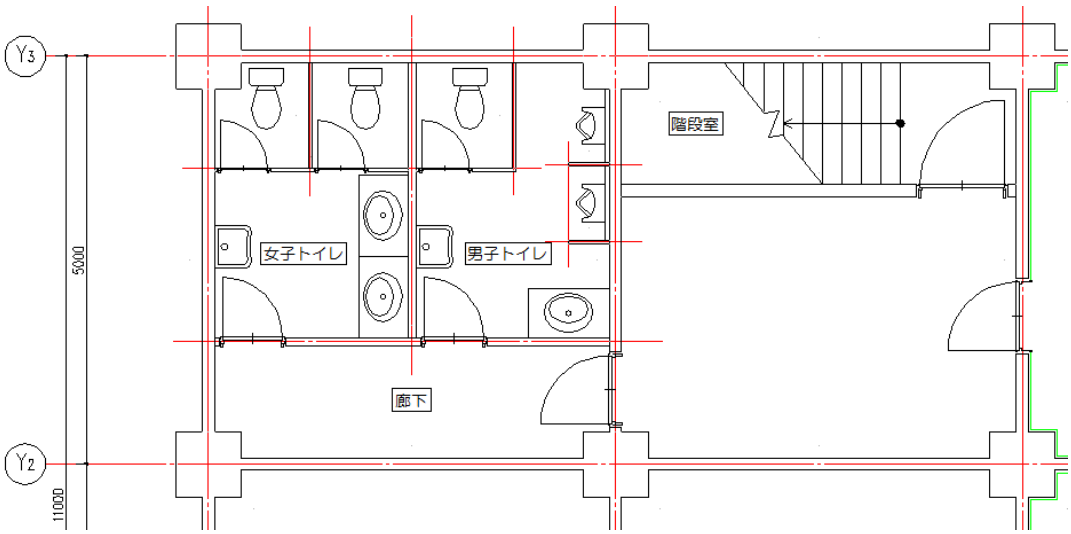
任意の場所に、ファイル名を「平面図・求積図」として保存します。

第２章

# 平面詳細図の作成

本章では、『意匠図版 adpack-NEO ｉ 』の様々な機能を使用して、下図のような平面詳細図を作成する手順について説明します。



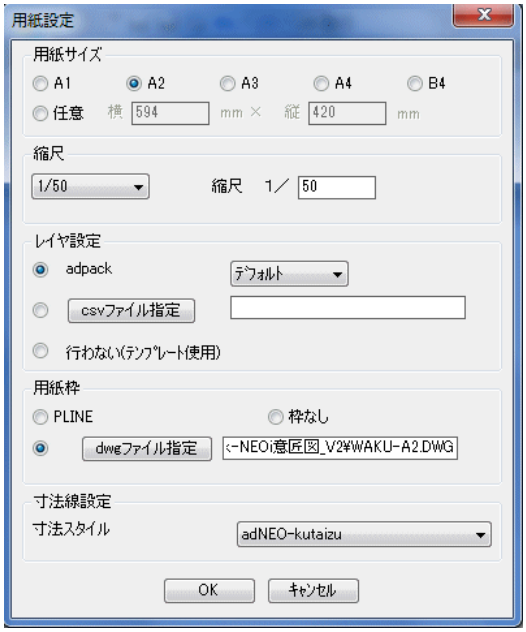
# ２－１　用紙設定を行う

メモ　IJCADの［新規作成］コマンドを実行して、新しい図面を開きます。

下記の手順で、用紙設定と設定変更を行います。

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪基本設定／UCS 他≫またはメインツールバーの≪基本設定／UCS 他≫ツールバーから、＜用紙設定／設定変更＞コマンド を選択します。

② 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・用紙サイズ：A2
・縮尺：1/50
・レイヤ設定：［adpack］－ **デフォルト**
・用紙枠：dwg ファイル指定　WAKU-A2.DWG
・寸法スタイル：adNEO-kutaizu

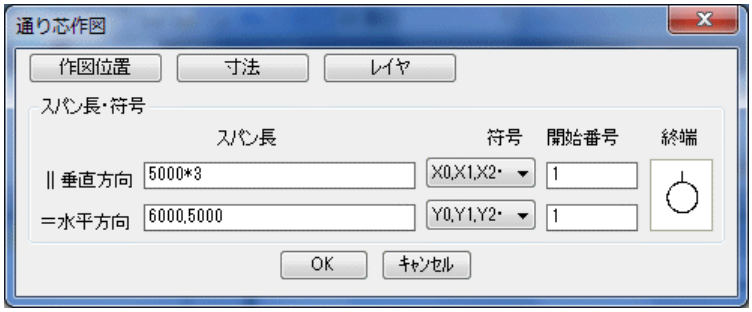
③ 作図範囲が設定され、画面上に用紙枠が作図されます。

# ２－２　通り芯を作図する

下記の手順で、通り芯を作図します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪意匠図一般≫またはメインツールバーの≪意匠図一般≫ツールバーから、＜基準線作図＞コマンド を選択します。

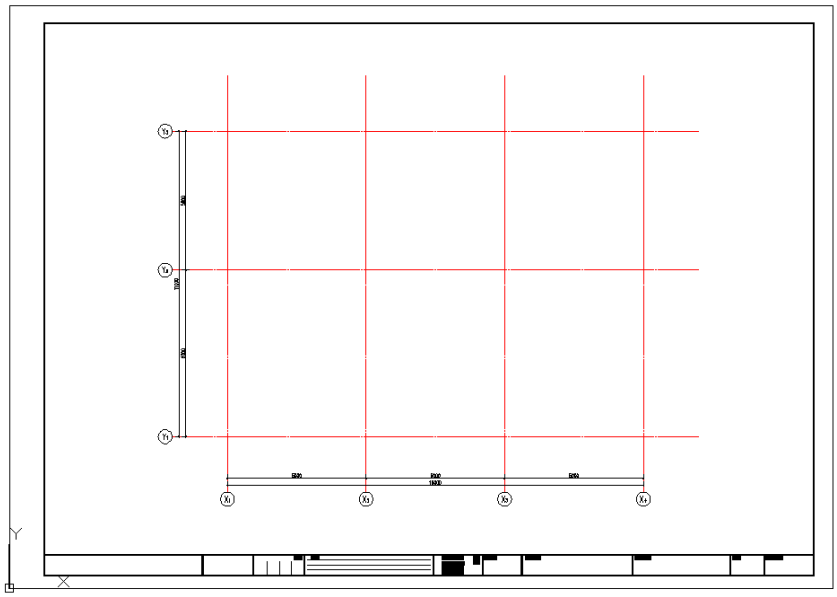
② 通り芯作図ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・垂直方向：5000*3
・水平方向：6000,5000

他は初期値

③ 設定した通り芯が表示して左下交点がカーソルに付いてくるので、図面枠の中央に配置します。



# ２－３　ＲＣ柱を配置する

下記の手順で、RC柱を配置します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜RC 角柱＞コマンドを選択します。

② RC 柱作図のダイアログが表示するので、次のように設定して【一括配置】をクリックします。

・柱幅：800
・柱成：800

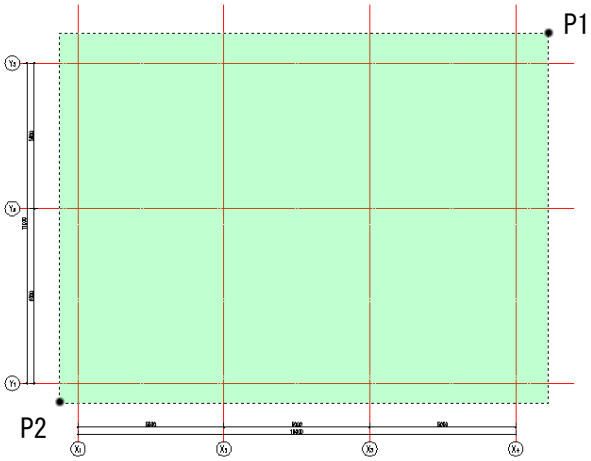
他は初期値

③ 画面上で柱を配置する通り芯を交差選択して、 で図形選択を終了します。

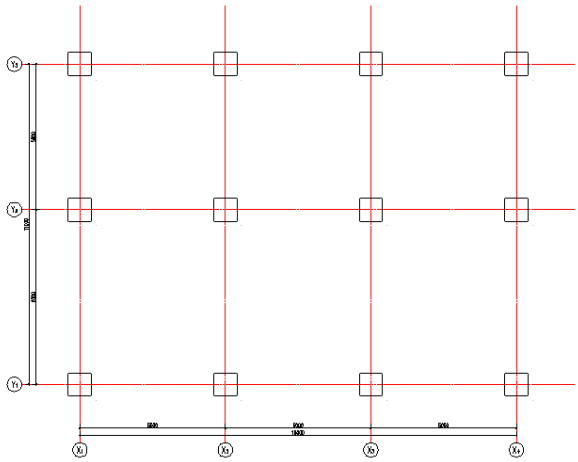
》柱を配置する通り芯を指示：（P1 を指示）

》もう一方のコーナーを指定：（P2 を指示）

》オブジェクトを選択：




④



800×800 の RC 柱が一括配置されます。

# ２－４　壁を作図する

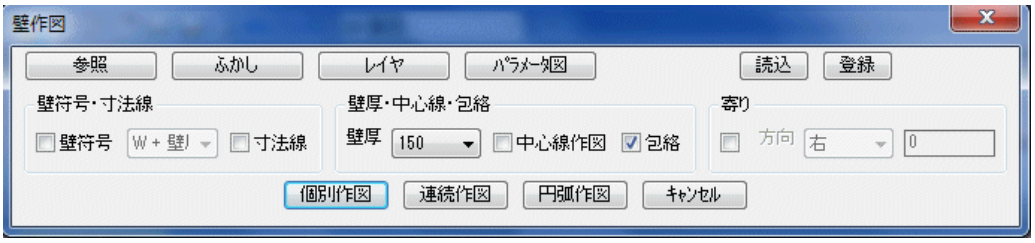
メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

下記の手順で、壁を作図します。

（１）連続作図

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜壁作図＞コマンド を選択します。

② 壁作図のダイアログボックスが表示するので、初期値のまま【連続作図】をクリックします。



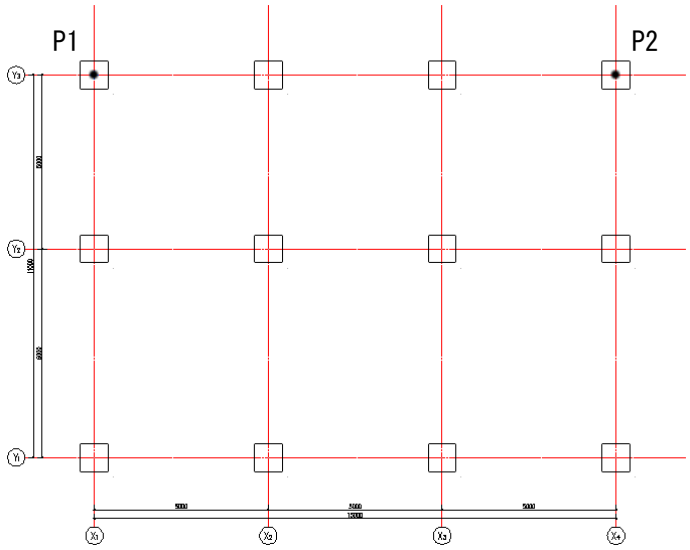

③ 外壁を連続作図するので、壁の始点・終点を指示します。

》壁作図始点を指定<終了>：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P2 を指示）

④ 次に作図方向を指定します。（中心の場合：↵を入力）

》作図方向を指定/<中心>：↵



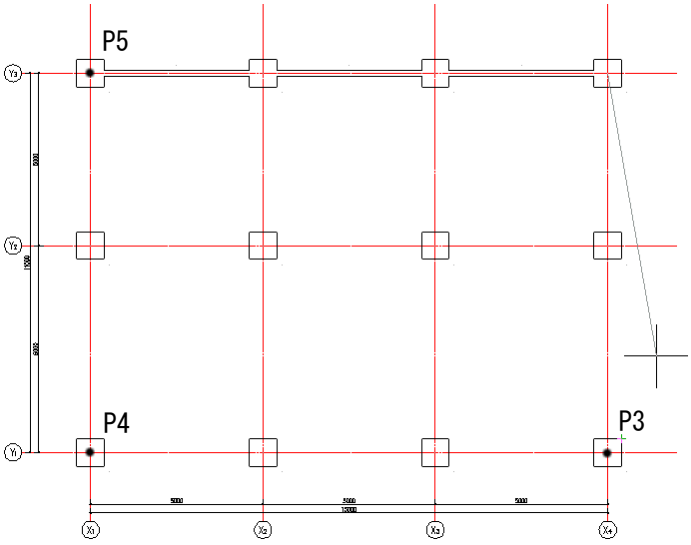

⑤ 連続で、P3～P5 を指示して、↵で終了します。

》次の点を指定<終了>：（P3 を指示）

》次の点を指定<終了>：（P4 を指示）

》次の点を指定<終了>：（P5 を指示）

》次の点を指定<終了>：↵




⑥ 外壁が作図されます。

（２）個別作図

① ＜壁作図＞コマンド を選択します。

② 壁作図のダイアログボックスが表示するので、初期値のまま【個別作図】をクリックします。

③ 内壁を作図するので、壁の始点・終点を指示します。

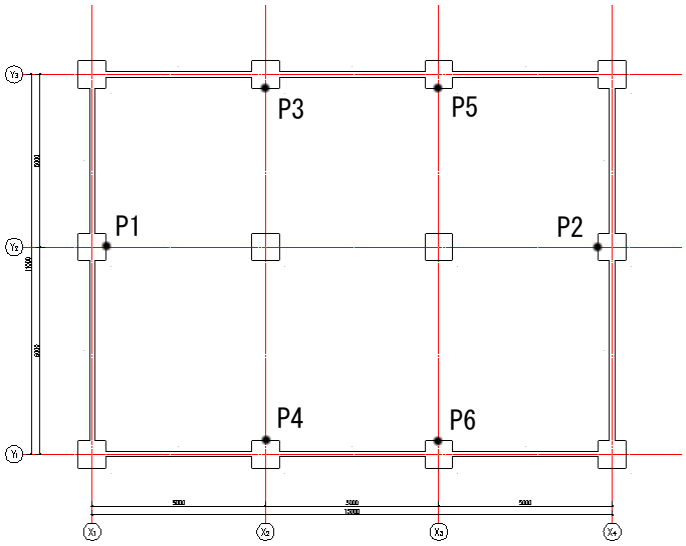
》壁作図始点を指定<終了>：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定<終了>：（P2 を指示）

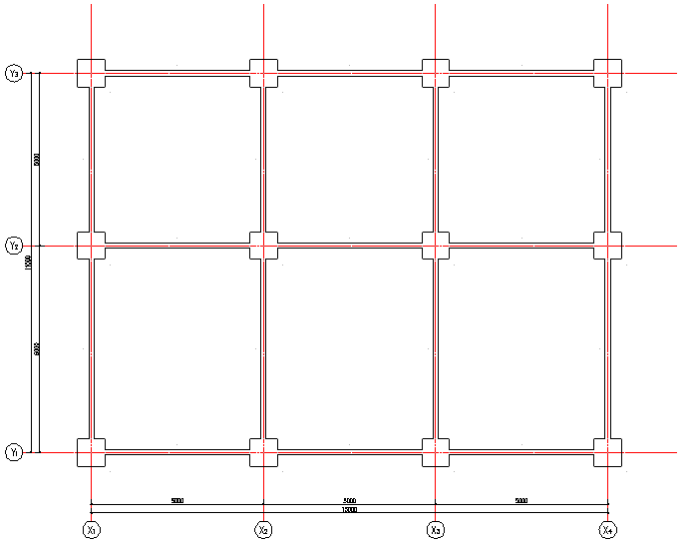
④ 次に作図方向を指定します。

》作図方向を指定/<中心>：

⑤ 他も同様に作図するので、③④を繰り返し P3～P4、P5～P6 を指示して壁を作図して、 でコマンドを終了します。



⑥ 内壁が作図されます。



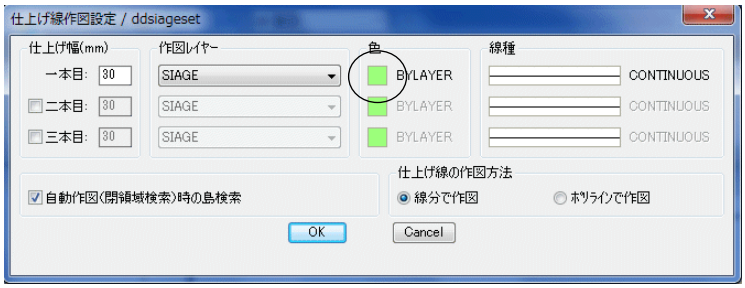
# ２－５　仕上線を作図する

下記の手順で、仕上線を作図します。

（１）仕上線設定

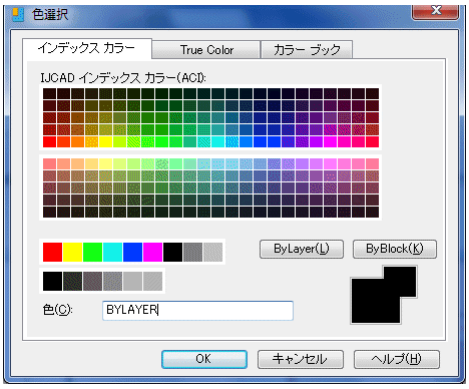
① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪仕上線／階段≫またはメインツールバーの≪仕上線／階段≫ツールバーから、＜仕上線設定＞コマンドを選択します。

② 仕上線設定のダイアログボックスが表示するので、「一本目」の「色」（初期値は BYLAYER）をクリックします。




③ 色選択のダイアログボックスが表示するので、仕上線の色を選択することができます。

ここでは【キャンセル】をクリックします。




④ 再度仕上線設定のダイアログボックスが表示するので、【OK】をクリックします。

メモ　ここで設定された内容は、これから作図する仕上線に反映されます。

（２）仕上線作図

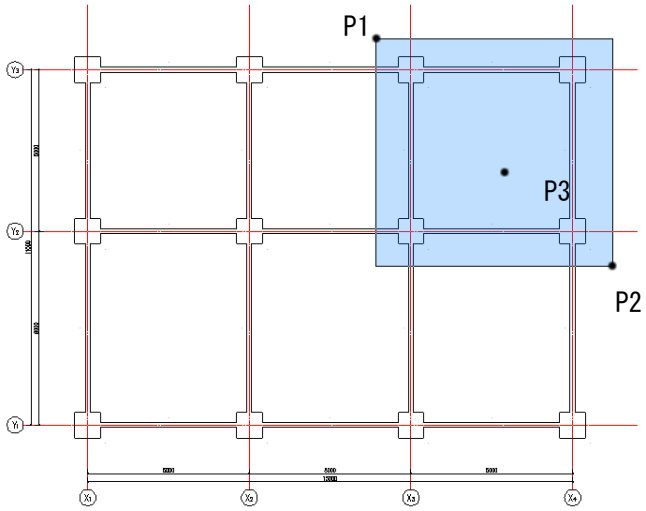
① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪仕上線／階段≫またはメインツールバーの≪仕上線／階段≫ツールバーから、＜仕上線－閉領域＞コマンドを選択します。

② 閉領域検索の対象図形となる図形を窓選択で一括指示して、 で図形選択を終了します。

》検索対象ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄを指示（RETURN=全て対象）：オブジェクトを選択：（P1 を指示）

》もう一方のコーナーを指定：（P2 を指示）

》オブジェクトを選択：



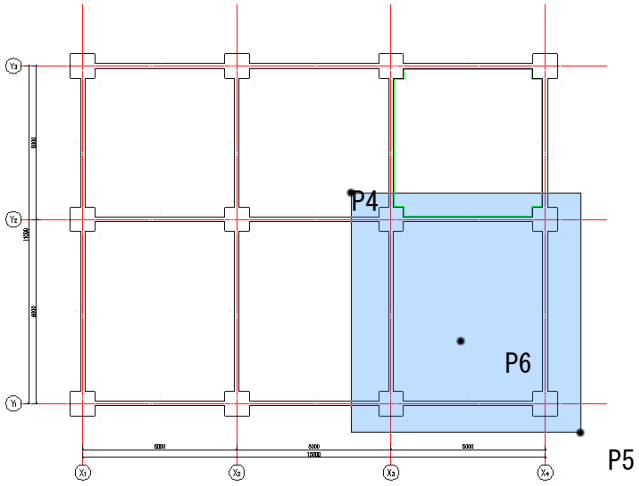

③ 指示した閉領域の内側を指示します。

》閉領域の内側の点を指示（RETURN=ｷｬﾝｾﾙ）：（P3 辺りを指示）

④ 検索結果がハイライト表示されるので、仕上線を作図する側を指示します。

》仕上げ線を作図する側を指示（RETURN=内側の点再指示）：（P3 辺りを指示）

⑤ 指示した領域に仕上線が作図されます。続けて作図できるので、②～⑤の操作を繰り返して、P4～P6 を指示して作図して でコマンドを終了します。




⑥ 指示した領域に仕上線が作図されます。

# ２－６　詳細建具を作図する

注意　詳細建具で作図した建具部材は、オブジェクト化されません。
詳細建具を配置すると壁も部材オブジェクトではなくなりますので、その後オブジェクト編集コマンド等は使用できなくなります。

メモ　あらかじめ、定常OSNAPの［交点］を設定しておきます。

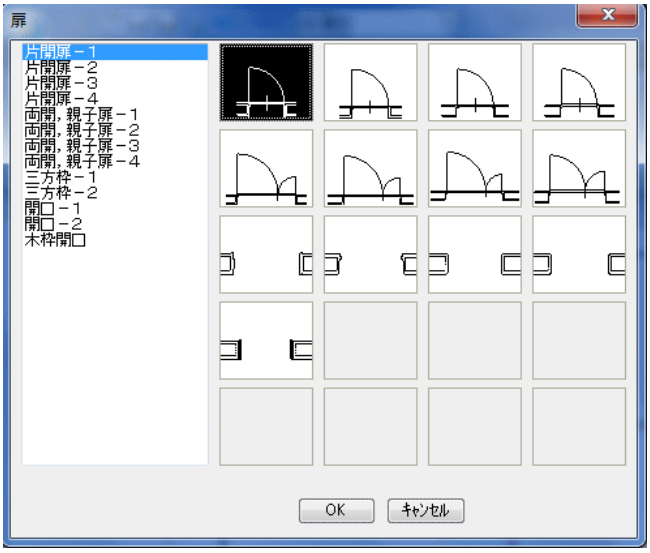
下記の手順で、詳細建具を作図します。

（１）詳細建具－扉

〈1〉片開扉－１の配置

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜詳細建具－扉＞コマンド を選択します。

② 詳細建具－扉のアイコンメニューが表示するので、「片開扉－１」を選択して【OK】をクリックします。




③ 詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

・［一般］タブ　W：900
　　他は初期値
・［詳細］タブ　初期値
・［レイヤー設定］タブ
　建具レイヤー：TATEGU
　枠レイヤー１：TATEGUW
　枠レイヤー２：TATEGUK

④ X3 通りと Y3 通りの交点にある柱から右に 300 離れた位置に詳細建具を配置します。

最初に、基準点を指示します。

》基準点を指示：（P1 を指示）

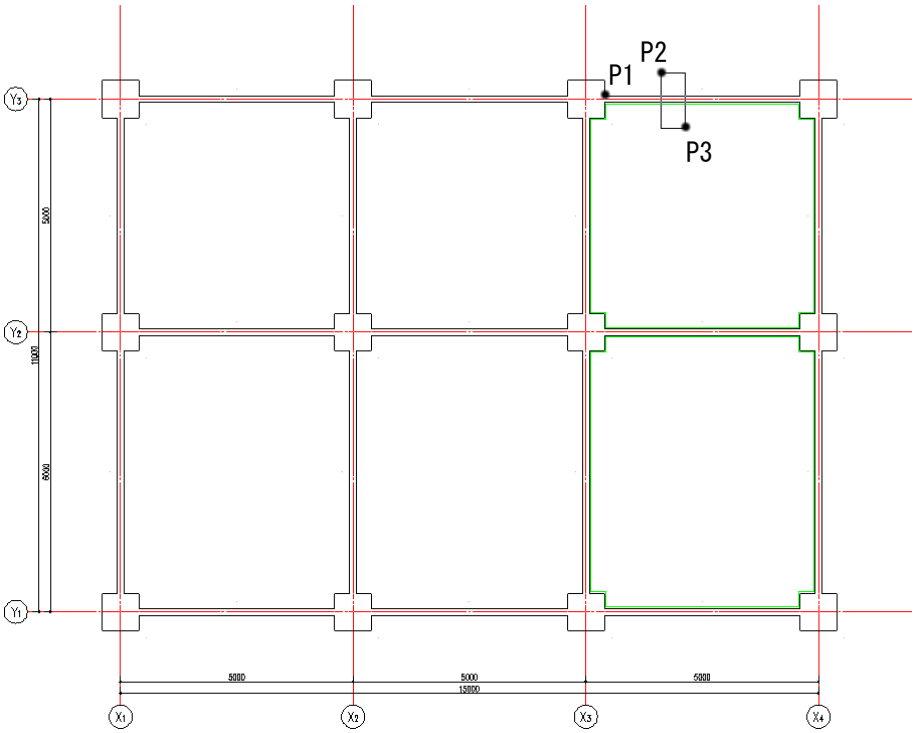
⑤ 詳細建具を配置する壁を交差するように指示します。

》一点目を指示：（P2 を指示）

》二点目を指示：（P3 を指示）

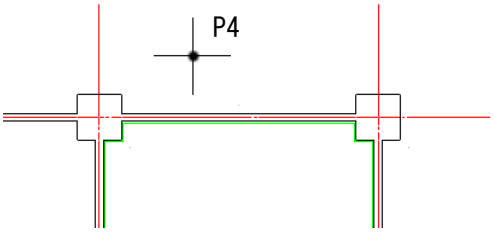
⑥ 基準点から詳細建具の端部までの壁方向の距離を指定します。

》移動距離<0>：300 ↵



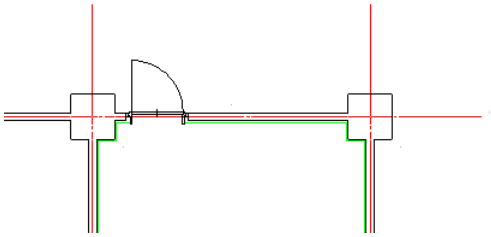

⑦ 建具の作図方向を指示します。

》作図方向を指示：（P4 を指示）




⑧ 詳細建具が作図されます。

再度詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。



〈2〉 片開扉－２の配置

① ＜詳細建具－扉＞コマンド を選択します。

② 詳細建具－扉のアイコンメニューが表示するので、「片開扉－２」を選択して【OK】をクリックします。

③ 詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

［一般］W：800　　他はすべて初期値

④ X3 通りと Y2 通りの交点にある柱から上に 1000 離れた位置に詳細建具を配置するので、基準点を指示します。

》基準点を指示：（P1 を指示）

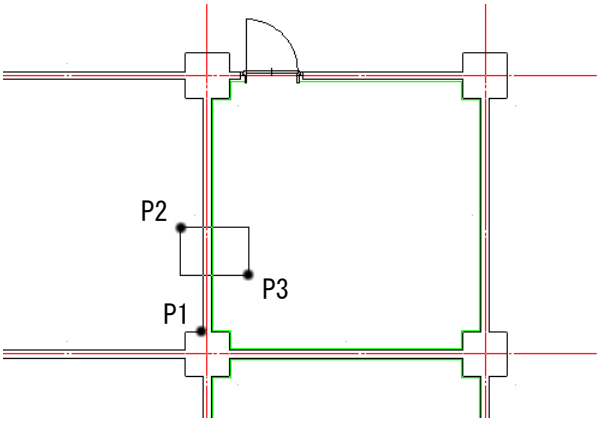
⑤ 詳細建具を配置する壁を交差するように指示します。

》一点目を指示：（P2 を指示）

》二点目を指示：（P3 を指示）

⑥ 基準点から詳細建具の端部までの壁方向の距離を指定します。

》移動距離〈0〉：1000 ↵

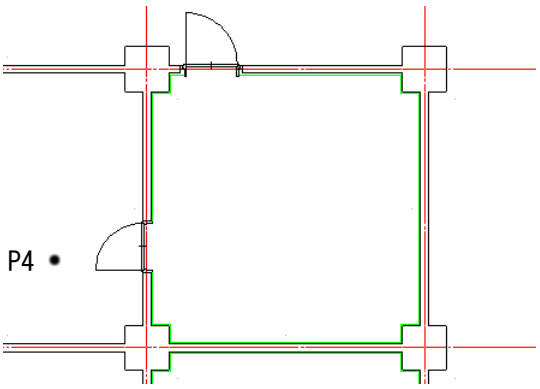



⑦ 建具の作図方向を指示します。

》作図方向を指示：（P4 を指示）

⑧ 詳細建具が作図されます。

再度詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。



〈3〉 片開扉－３の配置

① ＜詳細建具－扉＞コマンド を選択します。

② 詳細建具－扉のアイコンメニューが表示するので、「片開扉－３」を選択して【OK】をクリックします。

③ 詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

［一般］W：800　　左右反転：**チェック**　　他は初期値

④ X3 通りと Y2 通りの交点にある柱から右に 500 離れた位置に詳細建具を配置するので、基準点を指示します。

》基準点を指示：（P1 を指示）

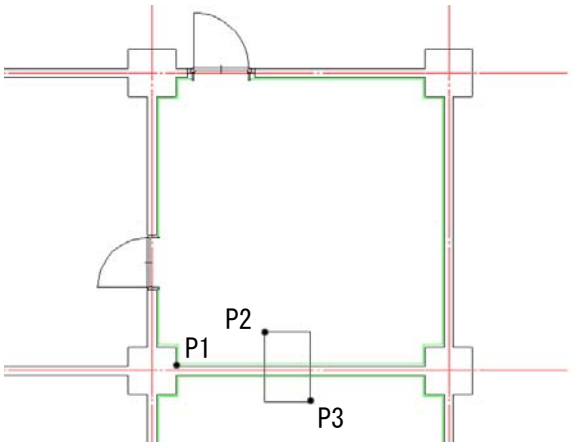
⑤ 詳細建具を配置する壁を交差するように指示します。

》一点目を指示：（P2 を指示）

》二点目を指示：（P3 を指示）

⑥ 基準点から詳細建具の端部までの壁方向の距離を指定します。

》移動距離〈0〉：500 ↵

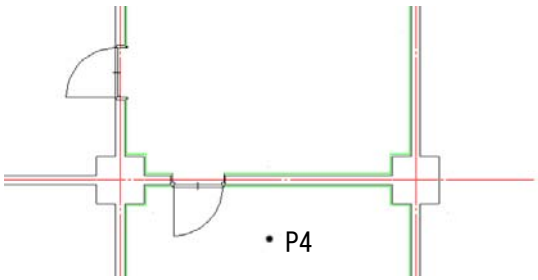



⑦ 建具の作図方向を指示します。

》作図方向を指示：（P4 を指示）

⑧ 詳細建具が作図されます。

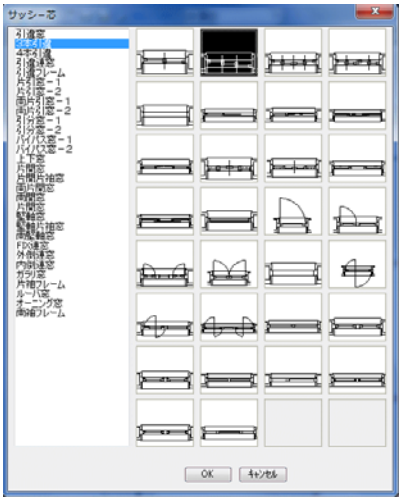
再度詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。



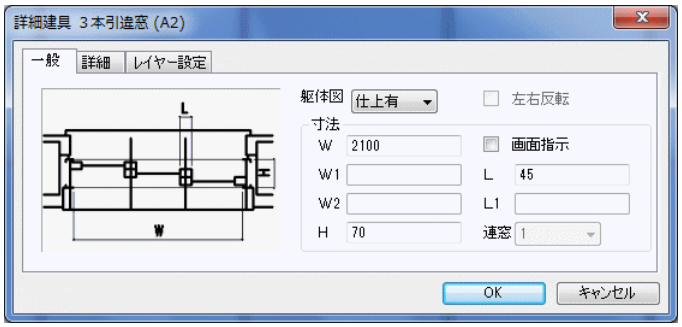
（２）詳細建具－サッシ芯

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜詳細建具－サッシ芯＞コマンド を選択します。

② 詳細建具－サッシ芯のアイコンメニューが表示するので、「３本引違」を選択して【OK】をクリックします。




③ 詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。　　［一般］W：2100　　他はすべて初期値




④ X3 通りと Y1 通りの交点にある柱から右に 1050 離れた位置に詳細建具を配置します。

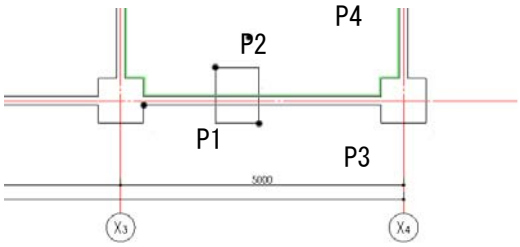
⑤ 基準点を指示し、配置する壁を交差するように指示して、距離を入力してから作図方向を指示します。

》基準点を指示：（P1 を指示）

》一点目、二点目を指示：（P2、P3 を指示）

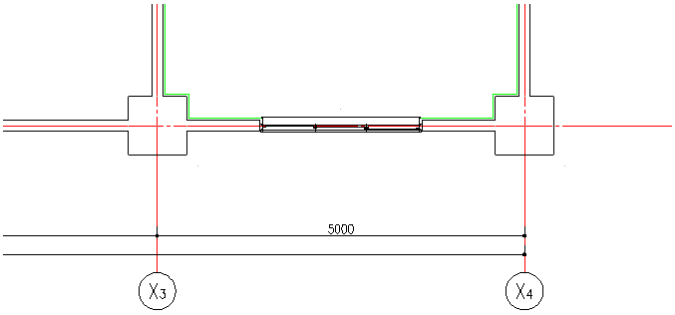
》移動距離<0>：1050 ↵

》作図方向を指示：（P4 を指示）



⑥ 詳細建具が作図されます。

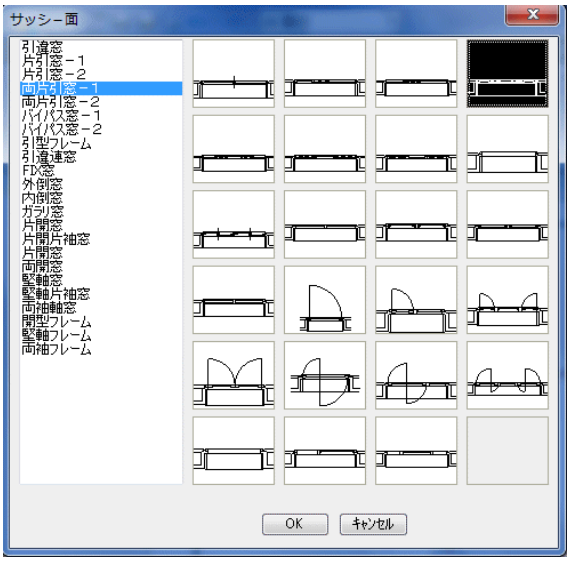
再度詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。



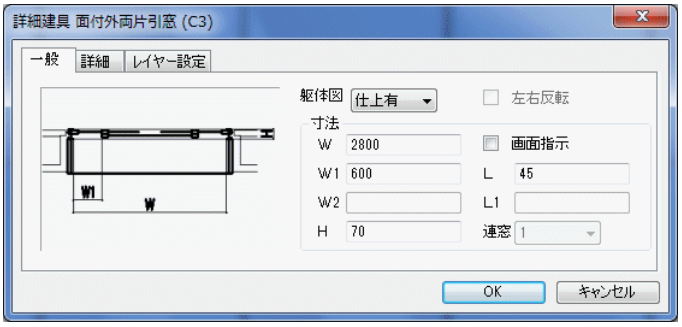

（３）詳細建具－サッシ面

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜詳細建具－サッシ面＞コマンド を選択します。

② 詳細建具－サッシ面のアイコンメニューが表示するので、「両片引窓－１」を選択して【OK】をクリックします。




③ 詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。　　［一般］W：2800　　他はすべて初期値




④ X4 通りと Y1 通りの交点にある柱から上に 1200 離れた位置に詳細建具を配置します。

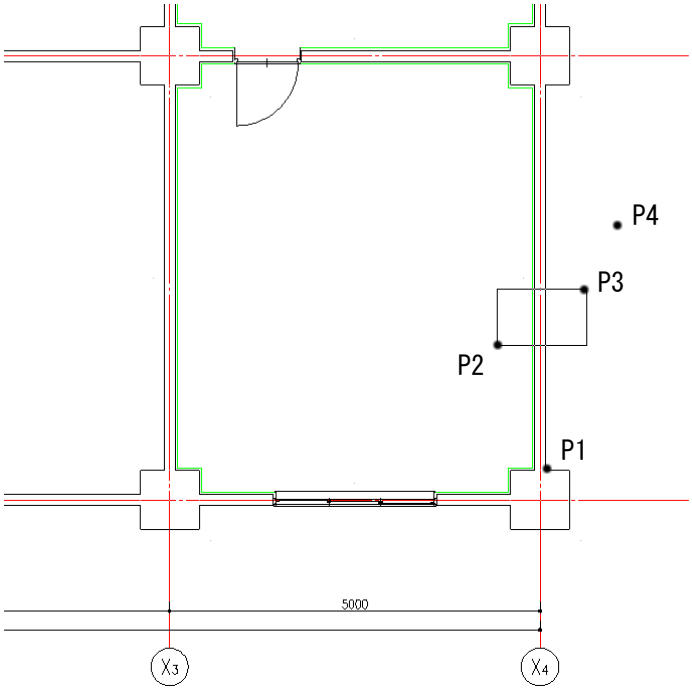
⑤ 基準点を指示し、配置する壁を交差するように指示して、距離を入力してから作図方向を指示します。

》基準点を指示：（P1 を指示）

》一点目、二点目を指示：（P2、P3 を指示）

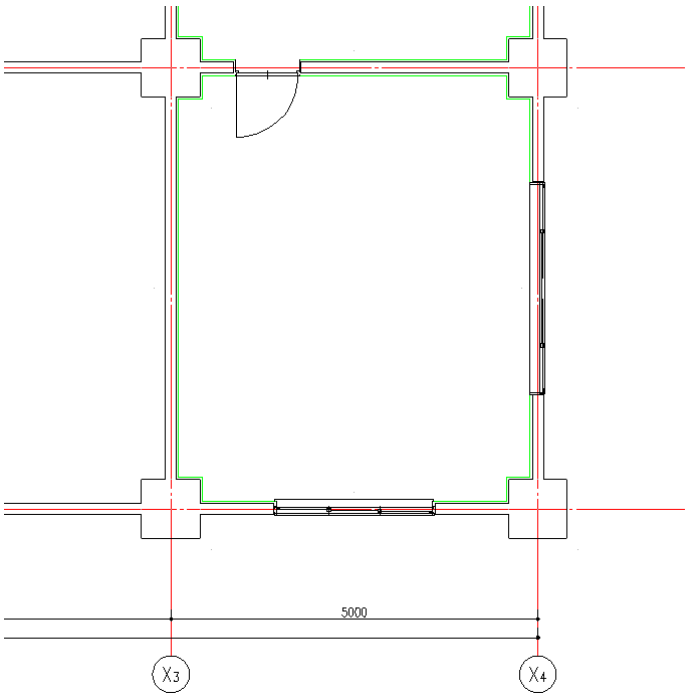
》移動距離<0>：1200 ↵

》作図方向を指示：（P4 を指示）




⑥ 詳細建具が作図されます。

再度詳細建具設定のダイアログボックスが表示するので、【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。



# ２－７ 詳細建具を削除する

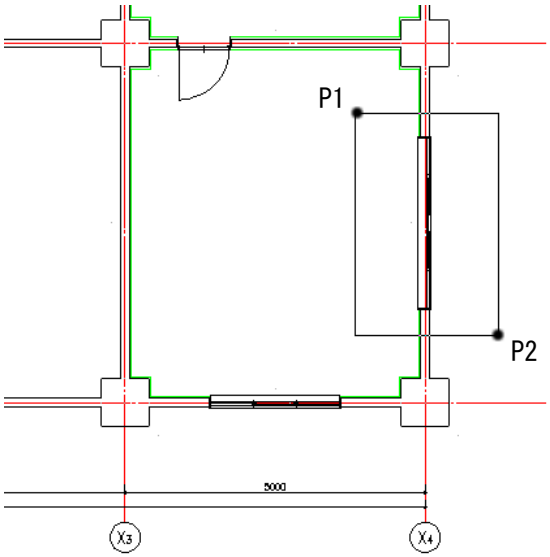
下記の手順で、詳細建具の削除を行います。

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜詳細建具削除＞コマンド を選択します。

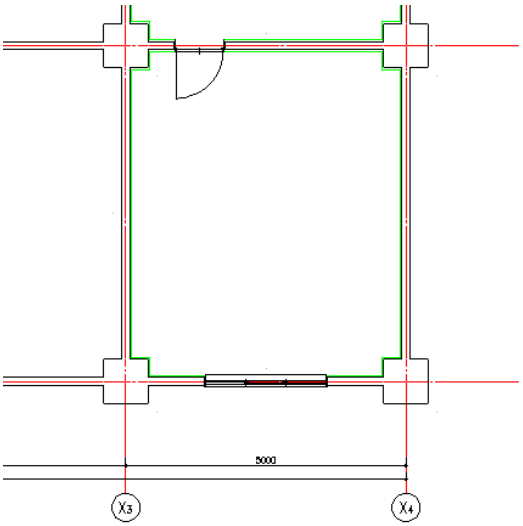
② X4 通り上にある詳細建具を削除します。

》削除する建具の一点目を指示：（P1 を指示）

》二点目を指示：（P2 を指示）




③ 選択した詳細建具が削除され、壁線が復帰します




注意 IJCAD のコマンドを使用して建具を削除した場合、壁は復帰されません。

# ２－８　階段を作図する

下記の手順で、階段の作図を行います。

メモ　定常OSNAPの［交点］の設定と、オブジェクトスナップトラッキングをオンに設定します。

（１）直線階段の作図

① リボンメニューの［NEO ｉ 意匠図］－≪仕上線／階段≫またはメインツールバーの≪仕上線／階段≫ツールバーから、＜直線階段＞コマンド を選択します。

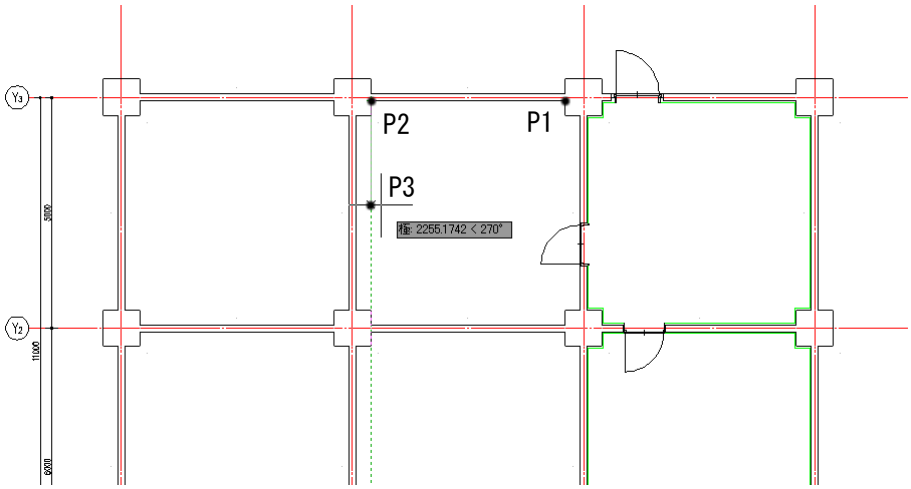
② 階段の始点と終点の位置を指示します。

》始点を指示（E=図形指示/RETURN=終了）：（P1 を指示）

》終点を指示：（P2 を指示）

③ 作図する方向を指示します。この時、始点・終点に対して垂直な位置を指示しないと、階段の線が曲がってしまうので注意して下さい。

》作図方向を指示：（P3 を指示）

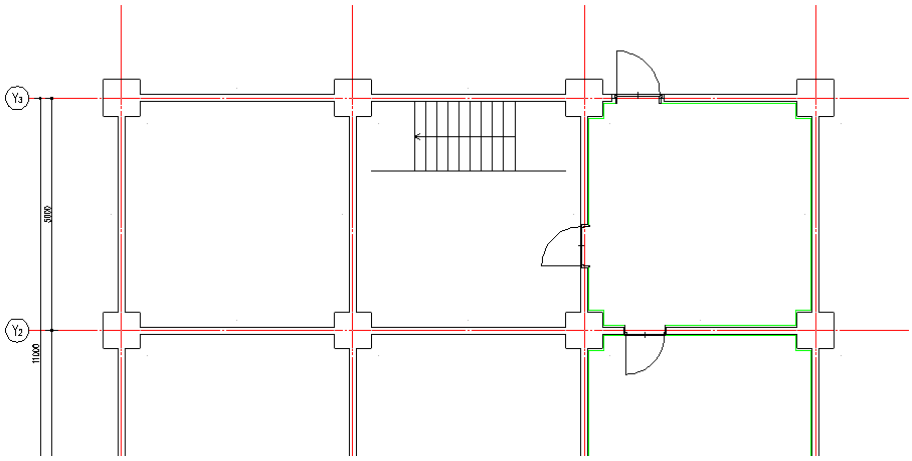



④ 直線階段のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

・階段幅：1500
・段数：10
　（蹴上げが「300」になることを確認）
・階段ﾚｲﾔｰ：ZATU
・矢印ﾚｲﾔｰ：MOJI

他は初期値

⑤ 階段と矢印が作図されます。



（２）省略線の作図と矢印位置等の編集

メモ 現在層を MOJI に設定します。

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪作図／記号≫またはメインツールバーの≪作図／記号≫ツールバーから、＜省略線＞コマンドを選択します。

② 折れ線の幅「3」(出力時)を入力します。

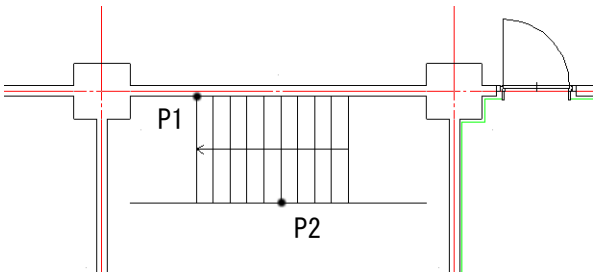
》折れ線の幅を入力 <1.5>: 3 ↵

③ 次に、始点・終点を指示後に ↵ を入力してコマンドを終了します。

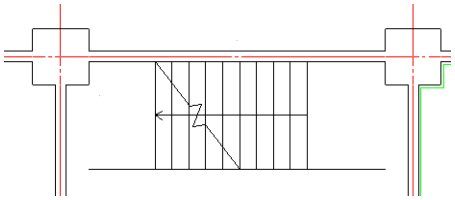
》始点を指示(Enter=終了): (P1 を指示)

》終点を指示: (P2 を指示)

》始点を指示(Enter=終了): ↵



④ 省略線が作図されます。

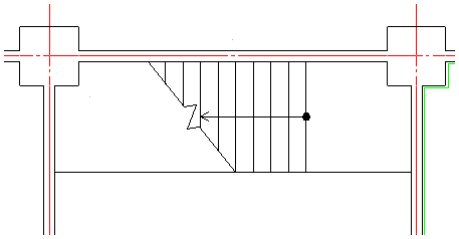


⑤ 下図のように編集します。

・延長やトリムや削除コマンドを使用した階段の編集

・ドーナツコマンドを使用した黒丸の作図

・ストレッチコマンドを使用した矢印位置の変更



# ２－９ トイレを作図する

下記の手順でトイレの作図を行います。

（１）間仕切壁の作成

〈1〉補助線作図

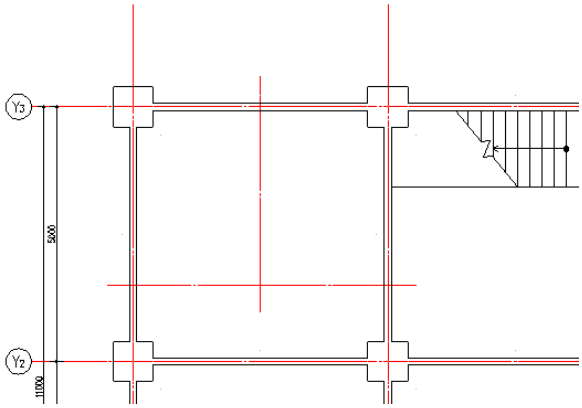
トイレブースの壁の作図位置に補助線を作図します。

① IJCAD のオフセットコマンドを実行します。（短縮：O ）

② オフセット距離を「2500」として、X1 通りから右側にオフセットします。

③ 再度オフセットを実行し、距離を「3500」として、Y3 通りから下側にオフセットします。

④ 極トラッキングをオンにしてからグリップの端点をドラッグして、下図のように補助線を短縮します。（Esc キーでグリップ解除）




〈2〉近接する躯体壁の属性変更

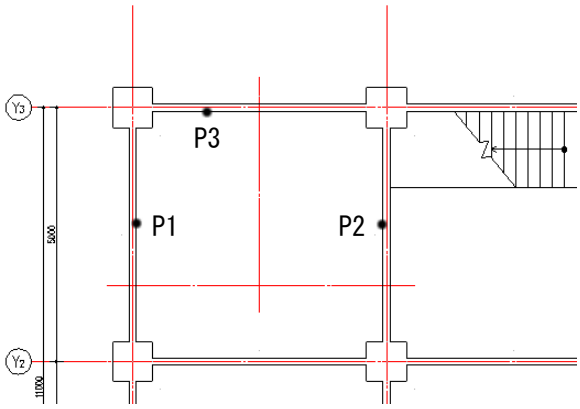
これから作図する間仕切壁と近接する躯体壁の属性を変更します。

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪意匠図一般≫またはメインツールバーの≪意匠図一般≫ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンド ED を選択します。

② 編集する壁オブジェクトを選択します。

》編集するオブジェクトを指示：（P1 を指示）

③ 壁編集ダイアログボックスが表示されるので、「包絡」の**チェックをオフ**にして、【OK】をクリックします。



④ 変更した内容で壁が再作図されます。この操作で、この壁に接続する間仕切壁を作図しても壁が包絡されないようになります。（この時点では画面上での変化はありません。）

⑤ 他の壁の属性も変更するので、①～③の操作を繰り返して、P2 P3 の壁の「包絡」の**チェックをオフ**にします。

〈3〉 トイレブースの壁作図

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪平面図／立面図≫またはメインツールバーの≪平面図／立面図≫ツールバーから、＜壁作図＞コマンド を選択します。

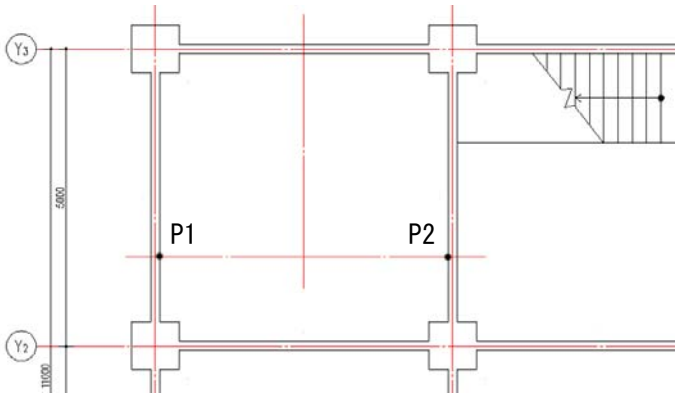
② 壁作図のダイアログボックスが表示するので、「壁厚：100」「包絡：**チェックオフ**」に設定して【個別作図】をクリックします。

③ 壁の始点・終点を指示して、中心で作図します。

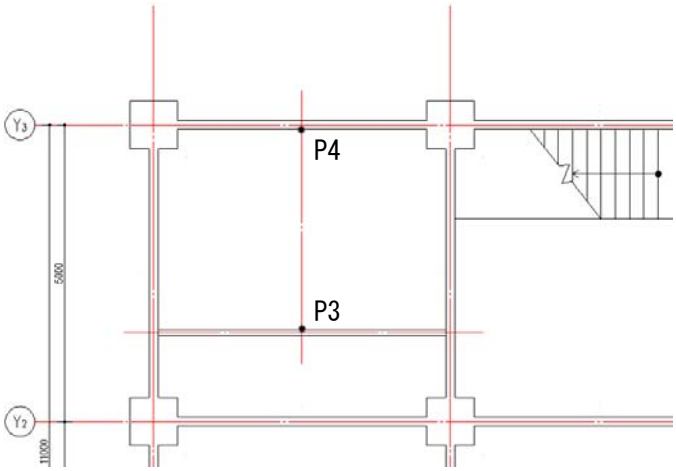
》壁作図始点を指定〈終了〉：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定〈終了〉：（P2 を指示）

》作図方向を指定/〈中心〉：




④ 続けて作図できるので、P3～P4 を指示して壁を中心で作図して、でコマンドを終了します。




⑤ トイレブースの壁が作図されます。

〈4〉 トイレ個室の壁作図

まず、トイレ個室の間仕切壁の作図位置に補助線を作図します。

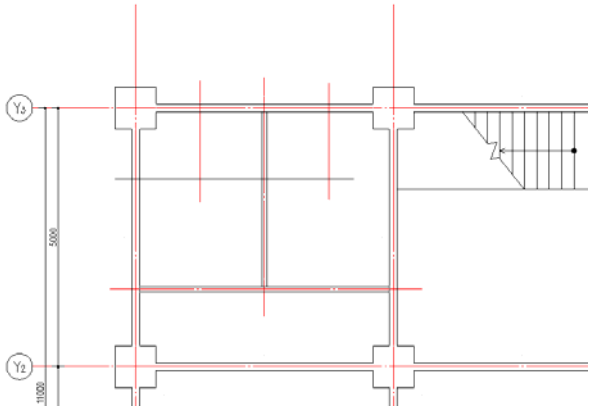
① IJCAD のオフセットコマンドを実行します。（短縮：O ）

・オフセット距離を「1250」として、X1 通りから右側にオフセットします。

・続けて、X2 通りから左側にオフセットします。

・オフセット距離を「1375」として、Y3 通りから下側へオフセットします。

② 極トラッキングをオンにしてからグリップの端点をドラッグして、下図のように補助線を伸縮します。（Esc キーでグリップ解除）




トイレ個室の間仕切壁を作図します。

③ ＜壁作図＞コマンド を選択します。

④ 壁作図のダイアログボックスで、「壁厚：40」「包絡：**チェックオフ**」に設定して【個別作図】をクリックします。

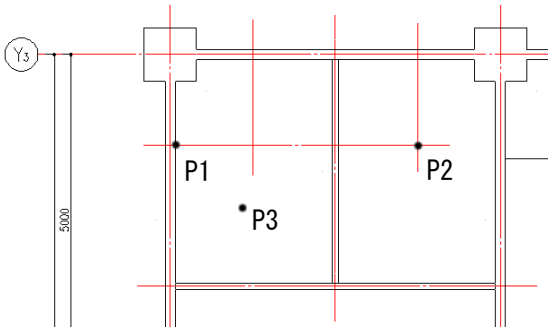
⑤ 水平の間仕切壁を作図するので、壁の始点、終点を指示します。

》壁作図始点を指定〈終了〉：（P1 を指示）

》壁作図終点を指定〈終了〉：（P2 を指示）

⑥ 次に作図方向を指定しますが、上合せにしたいのでカーソルを下方向に引いて指示します。

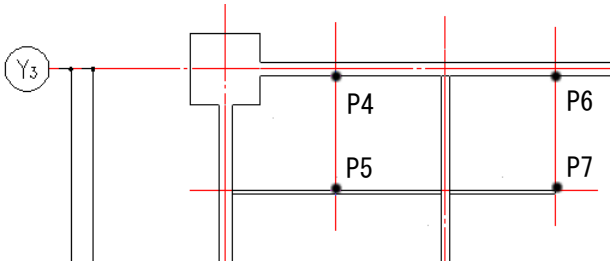
》作図方向を指定/〈中心〉：（P3 付近を指示）



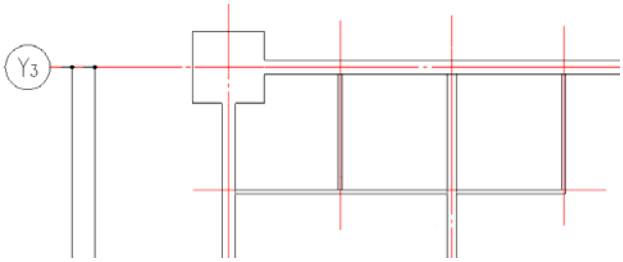

⑦ 続けて垂直方向の壁を作図するので、壁の始点終点 P4, P5 を指示します。

⑧ 次に作図方向を指定しますが、中心合せにしたいので ↵ を入力します。

⑨ 続けて P6,P7 を指示して壁を作図して、中心合せにするので ↵を入力し、コマンドを終了する為に ↵を入力します。




⑩ トイレ個室の間仕切壁が作図されます。




（２）片開扉の作成

<1> 躯体壁へ配置

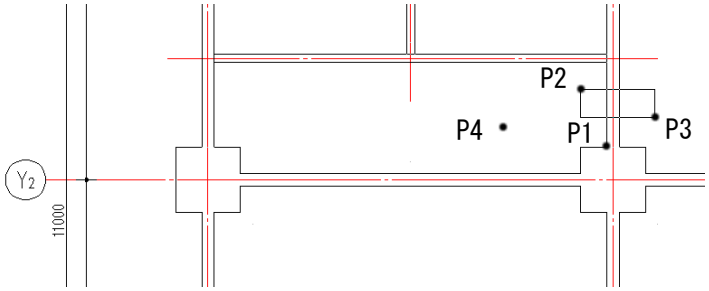
① ＜詳細建具－扉＞コマンド を選択して、詳細建具－扉のアイコンメニューで「片開扉－１」を選択し、【OK】をクリックします。

② 詳細建具設定のダイアログボックスで次のように設定して、【OK】をクリックします。
［一般］W：800　　左右反転：**チェックオフ**　　他は初期値

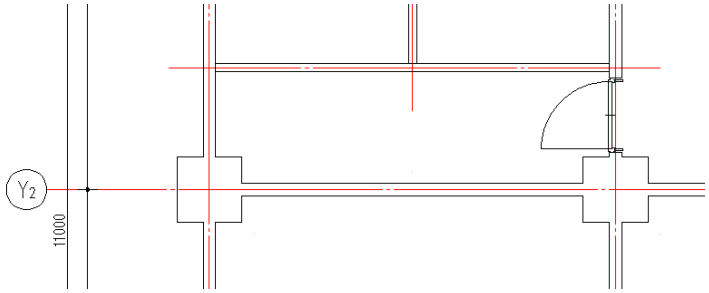
③ 基準点 P1 を指示して、片開扉を配置する壁を交差するように、P2,P3 を指示します。

④ 基準点から扉の端部までの壁方向の距離「100」を指定します。

⑤ 作図方向（P4 付近）を指示して、表示したダイアログボックスの【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。




⑥ 片開扉が作図されます。



〈2〉 トイレの扉作成

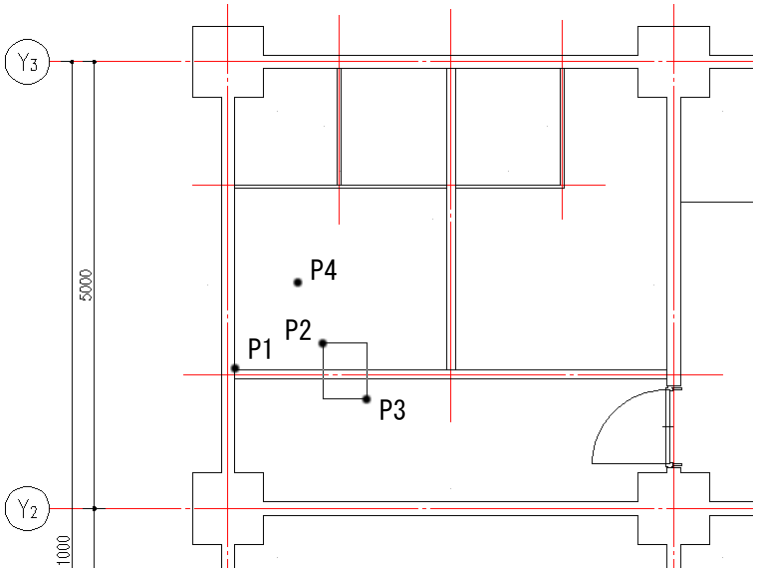
左側の女子トイレ入り口と右側の男子トイレ入り口に片開扉を作成します。

① ＜詳細建具－扉＞コマンド を選択して、詳細建具－扉のアイコンメニューで、「片開扉－１」を選択し、【OK】をクリックします。

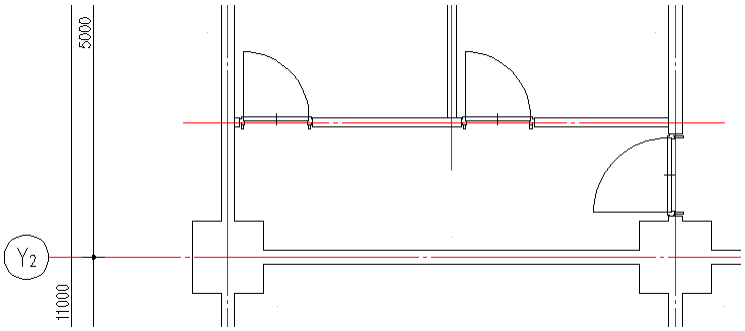
② 詳細建具設定のダイアログボックスで、次のように設定して【OK】をクリックします。
［一般］W：700　　他は初期値

③ 基準点 P1 を指示して、片開扉を配置する壁を交差するように、P2,P3 を指示します。

④ 基準点からの距離「100」を指定して、作図方向（P4 付近）を指示します。




⑤ 片開扉が作図されます。続けて同様の操作を繰り返し、隣の男子トイレの入り口にも片開扉を作図します。ダイアログボックスの【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。




〈3〉 トイレ個室の扉作成

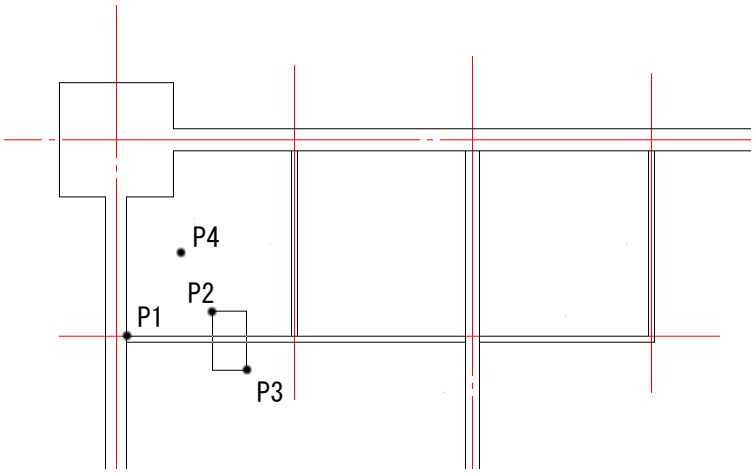
トイレ個室の片開扉を作成します。

① ＜詳細建具－扉＞コマンド を選択して、詳細建具－扉のアイコンメニューで、「片開扉－１」を選択し、【OK】をクリックします。

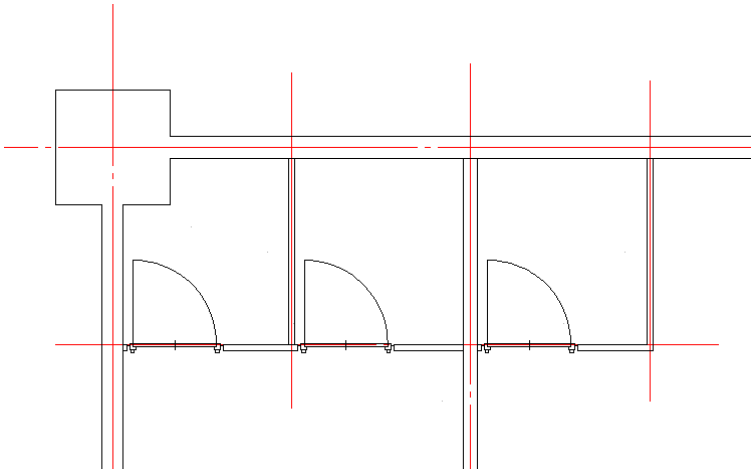
② 詳細建具設定のダイアログボックスで、次のように設定して【OK】をクリックします。
［一般］W：550　　H：40　　H1：20　　他は初期値

③ 基準点 P1 を指示して、片開扉を配置する壁を交差するように、P2,P3 を指示します。

④ 基準点から扉の端部までの壁方向の距離「70」を指定して、作図方向（P4 付近）を指示します。




⑤ 片開扉が作図されます。続けて、同様の操作で下図のように片開扉を作図します。ダイアログボックスの【キャンセル】をクリックしてコマンドを終了します。



（３）設備器具の配置

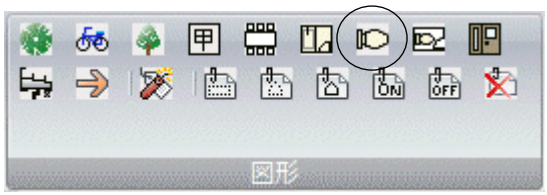
下記の手順で、トイレに設備器具を配置します。

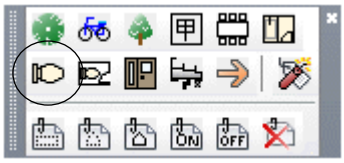
メモ 現在層を SETUBI に設定します。

メモ 定常OSNAPの［交点］［近接点］の設定と、オブジェクトスナップトラッキングをオンに設定します。

〈1〉洗面台の配置

① リボンメニューの［NEO i 意匠図］－≪図形≫またはメインツールバーの≪図形≫ツールバーから＜設備器具＞コマンドを選択します。



② アイコンメニューが表示するので、【N/次】ボタンをクリックして「ページ 2」を開きます。

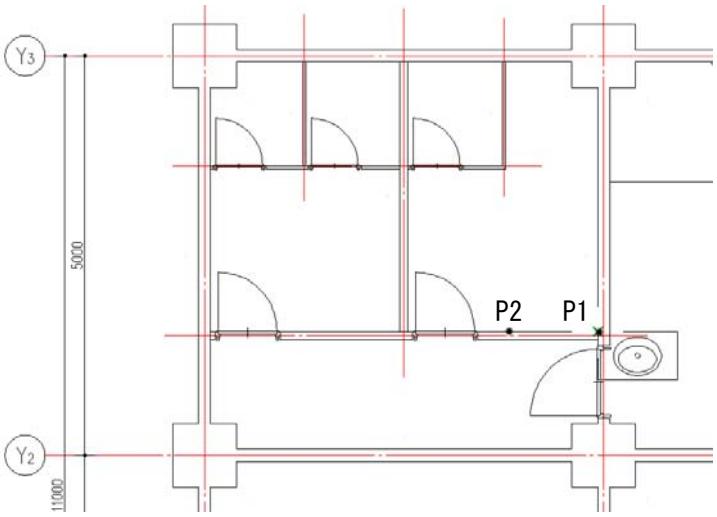
③ 配置する図形のイメージボタン［洗面台 1000（詳細図用）］を選択します。

④ 必要に応じて挿入条件を変更しますが、ここでは初期値のまま、【I/図形挿入】をクリックします。

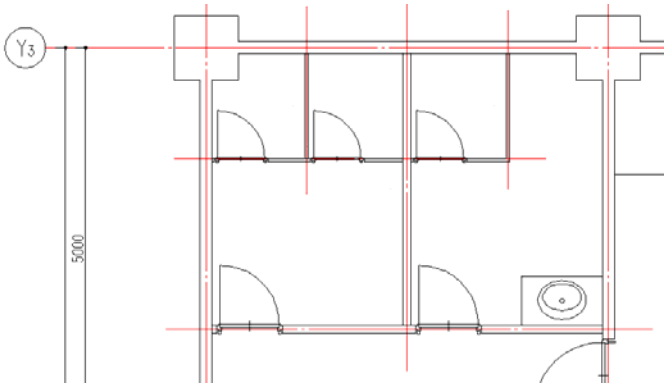
⑤ 洗面台の挿入位置を指示します。まず男子トイレに角度を変更して配置します。

》挿入位置を指示：（P1 を指示）

》回転角度を指定 または［コピー(C)/参照(R)］<180>:（P2 を指示）




⑥ 洗面台が配置されます。



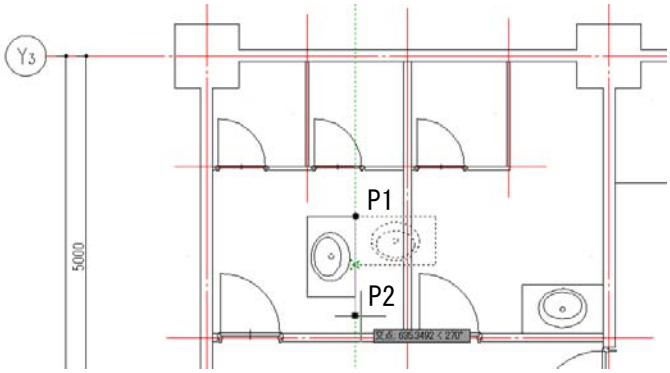
⑦ 女子トイレにも洗面台を配置するので、再度＜設備器具＞コマンドを選択します。

⑧ アイコンメニューから配置する図形のイメージボタン［洗面台 1000（詳細図用）］を選択して、【I/図形挿入】をクリックします。

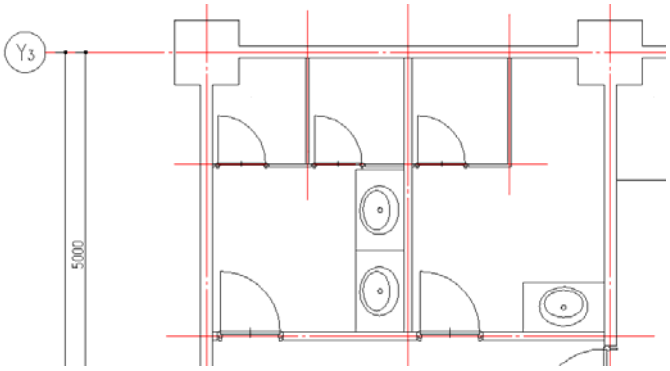
⑨ 洗面台の挿入位置を指示します。女子トイレに２つ配置しますが、基点の位置から直接の配置はできないので、空いている場所に角度を変更して配置し、後から目的の所に移動します。

》挿入位置を指示：（P1 を指示）

》回転角度を指定 または［コピー(C)/参照(R)］<180>:（P2 を指示）



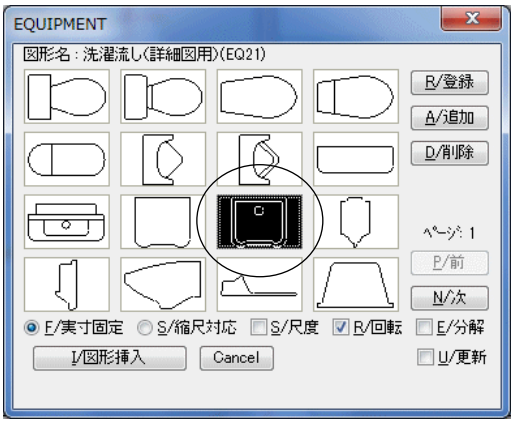

⑩ 洗面台が配置されます。IJCAD の移動コマンド（短縮：M ）を実行して、下図のように下側の壁側に移動した後で、もう１つ上にコピーします。（短縮：CO 又は CP ）




<2> 洗濯流しの配置

① ＜設備器具＞コマンドを選択します。

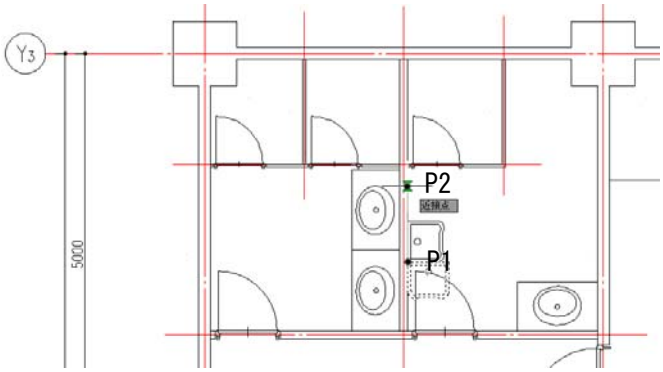
② アイコンメニューから配置する図形のイメージボタン［洗濯流し（詳細図用）］を選択して、【I/図形挿入】をクリックします。



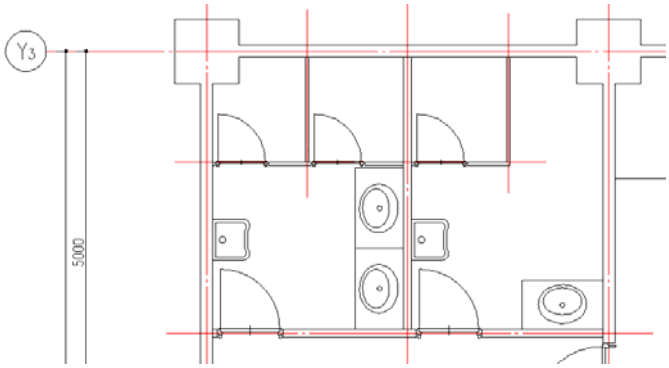
③ 洗濯流しの挿入位置を指示します。まず男子トイレに下図のように配置します。

》挿入位置を指示： (P1 を指示)

》回転角度を指定 または［コピー(C)/参照(R)］<90>: (P2 を指示)




④ 洗濯流しが配置されます。下図のように女子トイレにもコピーして配置します。




<3> 洋便器の配置

メモ オブジェクト スナップ オフ にします。

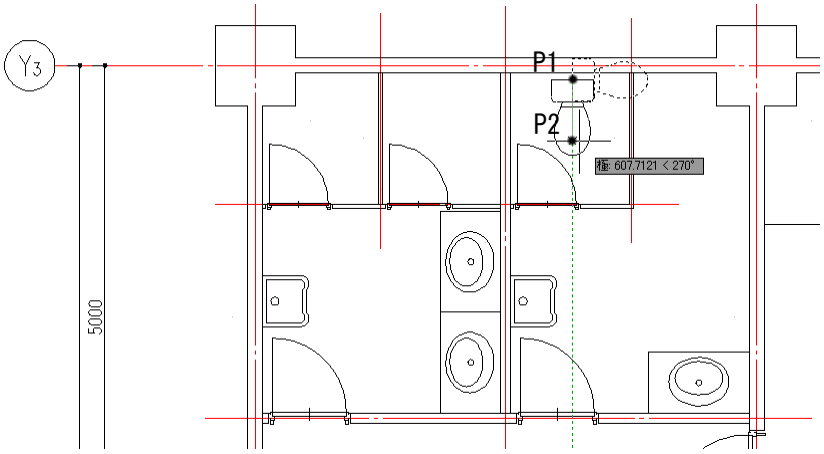
① ＜設備器具＞コマンド を選択します。

② アイコンメニューから配置する図形のイメージボタン［洋便器－１（詳細図用）］を選択して、【I/図形挿入】をクリックします。

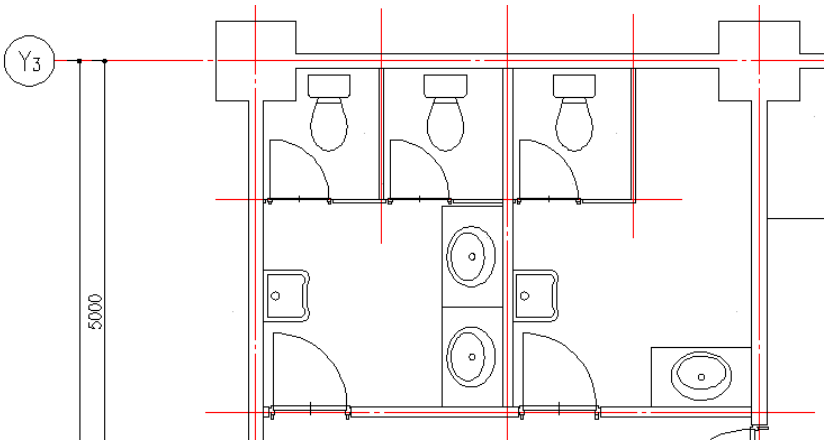
③ 洋便器の挿入位置を指示します。まず男子トイレに下図のように配置します。

》挿入位置を指示： (P1 を指示)

》回転角度を指定 または［コピー(C)/参照(R)］<90>: (P2 を指示)




④ 洋便器が配置されます。下図のように女子トイレにもコピーして配置します。




<4> 小便器と間仕切の配置

メモ オブジェクト スナップ オン にします。

まず、トイレ個室の間仕切壁の作図位置に補助線を作図します。

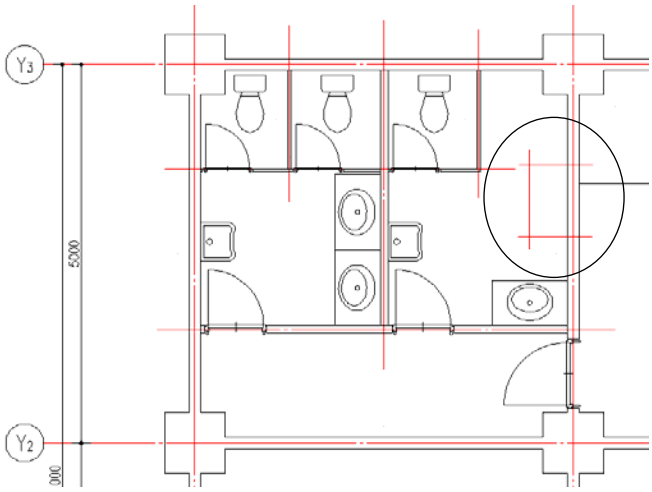
① IJCAD のオフセットコマンドを実行します。（短縮：O ）

・オフセット距離「1325」で、Y3 通りから下側にオフセットします。

・オフセット距離「950」で、その線から下側にオフセットします。

・オフセット距離「575」で、X2 通りから左側へオフセットします。

② 極トラッキングがオンになっていることを確認してからグリップの端点をドラッグして、下図のように補助線を伸縮します。（Esc キーでグリップ解除）

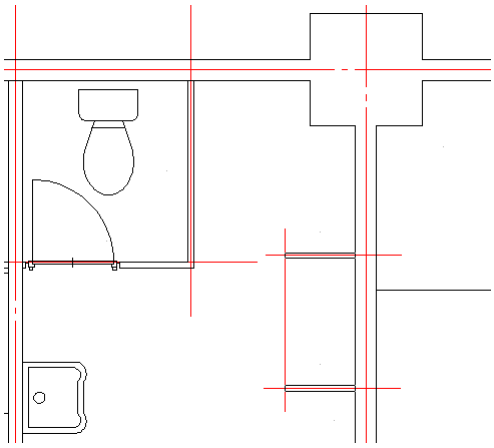



間仕切を作図します。

③ ≪平面図／立面図≫メニューから、＜壁作図＞コマンド を選択します。

④ 壁作図のダイアログボックスで、「壁厚：40」「包絡：**チェックオフ**」に設定して【個別作図】をクリックします。

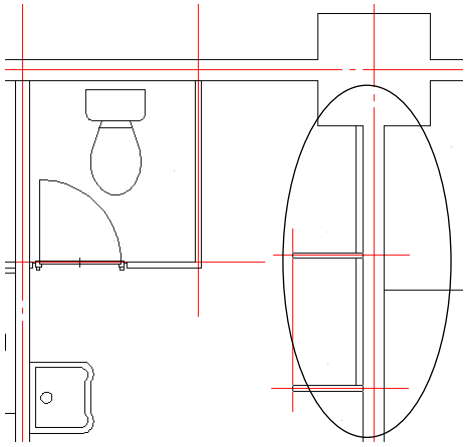
⑤ 下図のように、2 箇所に中心合せで間仕切を作図します。



下図のように、あらかじめ小便器を配置する線を作図しておきます。

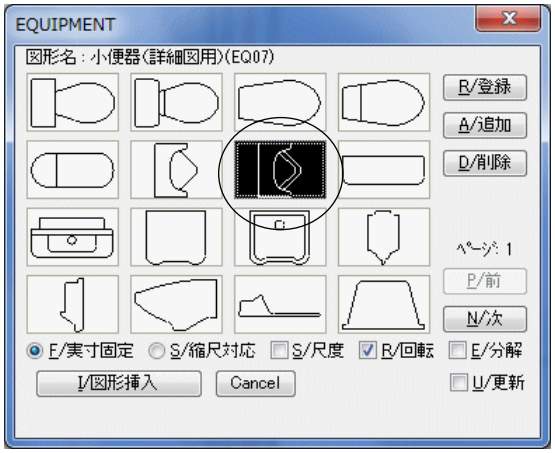
X2 通りから左側に 125 オフセットして、トリムコマンドで編集します。

作図した線のレイヤーを、「KIJUN」レイヤーから「SETUBI」レイヤーに変更します。

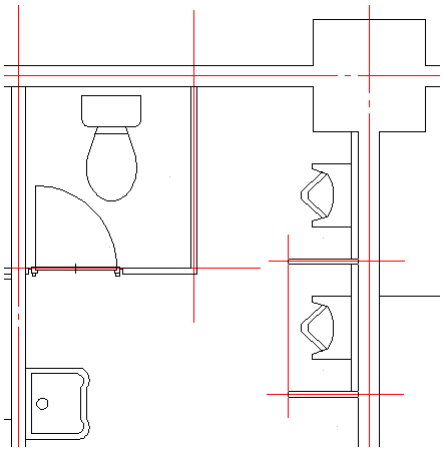


⑥ ≪図形≫メニューから＜設備器具＞コマンドを選択します。

⑦ アイコンメニューから配置する図形のイメージボタン［小便器（詳細図用）］を選択して、【I/図形挿入】をクリックします。




⑧ 小便器を下図のように２つ配置します。



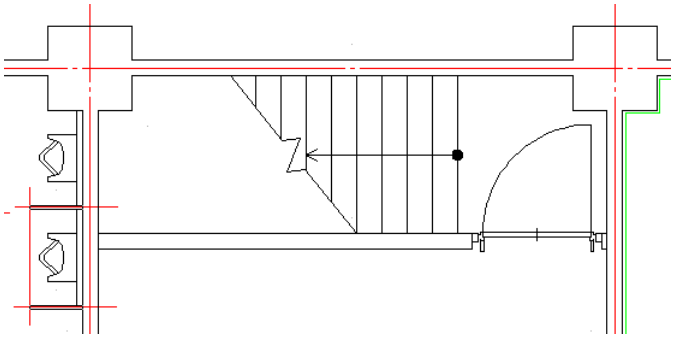
⑨ トイレの作図はこれで完了ですが、下図のように階段室にも壁と詳細建具を配置します。

＜壁作図＞コマンド　　壁厚：150　**上合せ**

＜詳細建具－扉＞コマンド

［片開扉－１］W：1000　H：80　H1：40　左右反転：**チェックオン**

X3 通りの壁からの移動距離：150



# ２－１０　文字を記入する

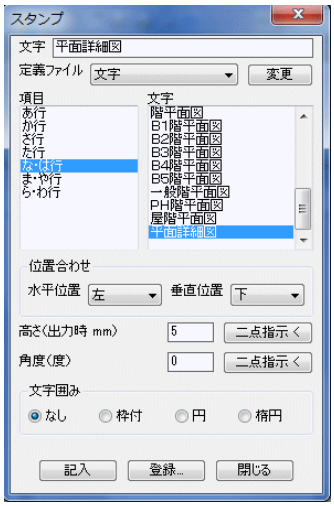
下記の手順で文字を記入します。

（１）室名の記入

〈1〉文字設定

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪文字／引出線≫またはメインツールバーの≪文字／引出線≫ツールバーから＜文字設定＞コマンドを選択します。

② 文字設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・スタイル名：HG 丸ｺﾞｼｯｸ M-PRO
・文字囲み：枠付

他は初期値

メモ　この設定は、これ以降に≪文字／引出線≫メニューの＜文字記入＞や＜スタンプ＞コマンドで作図した文字に反映されます。

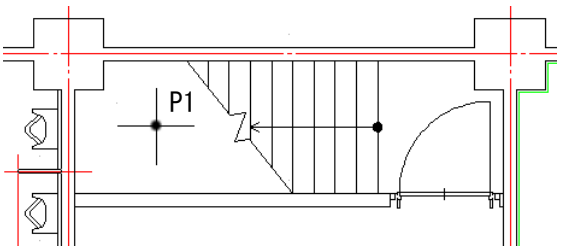
〈2〉文字記入

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪文字／引出線≫またはメインツールバーの≪文字／引出線≫ツールバーから、＜文字記入　中＞コマンド A を選択します。

② 文字の垂直方向の基点を「M=中」に変更して、文字の基点（中央）の位置を指示します。

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=B]：　M　↵

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]：(P1 を指示)



③ 記入する文字列を入力します。

》文字列を入力(Enter=挿入点指示)：**階段室**

④ 続けて作図できるので、下図のように文字を配置して、⏎でコマンドを終了します。

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]：(基点を指示)

》文字列を入力(Enter=挿入点指示)：**男子トイレ**

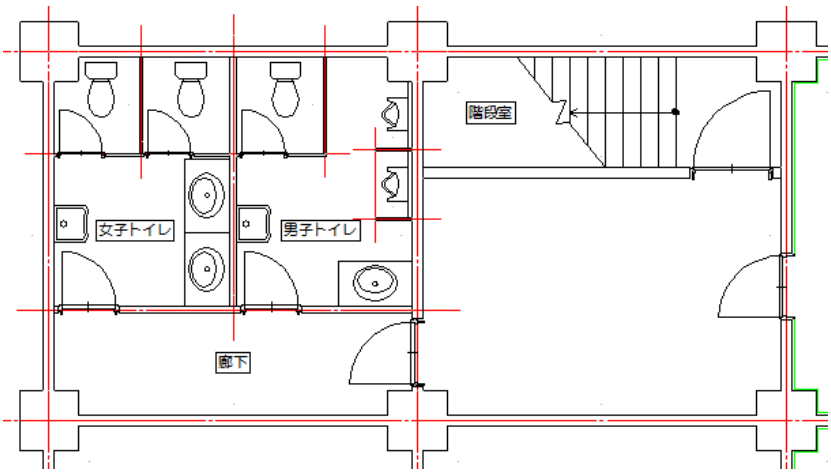
》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]：(基点を指示)

》文字列を入力(Enter=挿入点指示)：**女子トイレ**

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]：(基点を指示)

》文字列を入力(Enter=挿入点指示)：**廊下**

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]：⏎

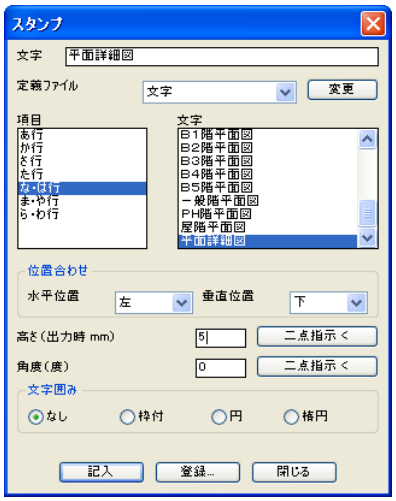



（２）図面名称の記入

図面枠左下の図面名称欄に記入するので、右下の辺りを拡大しておきます。

① リボンメニューの［NEO i 基本］－≪文字／引出線≫またはメインツールバーの≪文字／引出線≫ツールバーから、＜スタンプ＞コマンドを選択します。

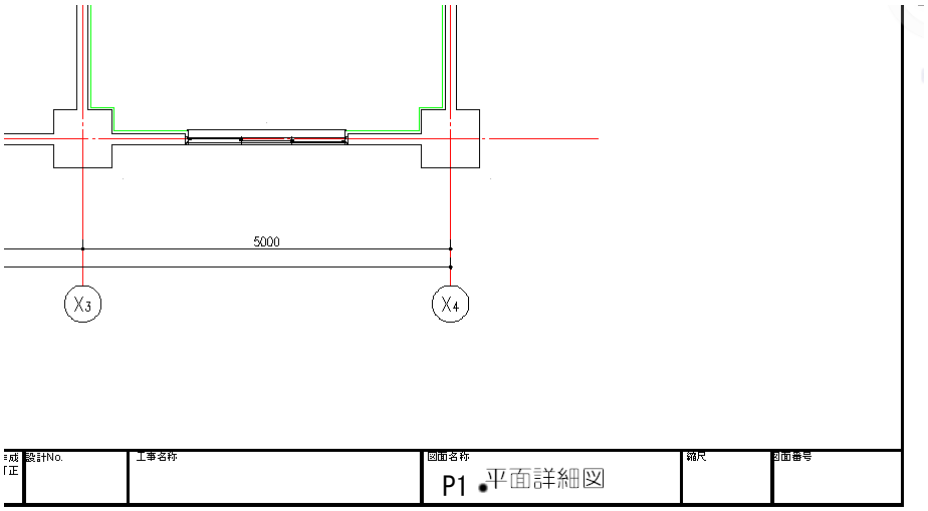
② スタンプのダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【記入】をクリックします。




・定義ファイル：**文字**
・項目：**な・は行**
・文字：**平面詳細図**
・位置合わせ：水平位置　**左**　／垂直位置　**下**
・高さ（出力時 mm）：**5**

③ 配置する文字の基点位置（P1）を指示します。

》挿入点を指示(Enter=終了)：（P1 を指示）




④ 続けて同じ文字を配置できますが、↵ で終了します。

》挿入点を指示(Enter=終了)：↵

⑤ 再びスタンプのダイアログボックスが表示するので、【閉じる】をクリックしてコマンドを終了します。

図面全体ズームを実行した後で、IJCAD の［名前を付けて保存］コマンドを実行します。

任意の場所に、ファイル名「**平面詳細図**」として保存します。

意匠図版 adpack-NEO i 操作手順マニュアル　2022 年 1 月

制作・著作　株式会社アークデータ研究所
〒116-0013　東京都荒川区西日暮里 2-37-14
TEL：03-5901-9452、FAX：03-5901-9451

無断転載禁止